



DHS - 132A
DHS - 132AP
操作説明書

適用機種
DHS - 132A DHS - 132AP

株式会社 ディジ・テック

改訂履歴表

改訂年月日	項目	改訂内容
2014/2/28	第1版	初版
2014/5/9	第2版	P.2, 29 Fujitsu タグ対応機種の表記を修正 (DHS-132A のみ対応)
2014/10/7	第3版	P.2, 29 Tag-It HF-I Plus/Pro/Standard の記述を追加 P.13, 26, 44, 48 JAN/EAN/UPCE 設定を変更 P.10 HID 使用時の注意点を記述 P.30 設定項目「応答確認」にRF タグ再送処理の記述を追加 P.57 スキャン動作中のホスト制御について記述
2014/11/27	第4版	P.14, 17, 21, 33, 56 「自動オフ」設定の記述を修正

目次

1. 概要	1
2. 各部の名称	1
3. スキャナモード	2
3-1. 機能概要	2
3-2. 操作方法 (接続前)	2
3-2-1. ペアリングモードにして、ペアリング要求のあった機器へ『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP,HID)	3
3-2-2. 前回の接続先へ『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP、HID)	4
3-2-3. アドレスバーコードを読み取って『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP、HID)	5
3-2-4. アドレスバーコード(1桁)を読み取って『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP、HID)	6
3-2-5. 『スレーブ接続』(対応プロファイル:SPP)	8
3-2-6. 『デモ動作』	9
3-3. 操作方法 (接続後)	10
3-4. 設定項目	13
4. 1対1照合モード	15
4-1. 機能概要	15
4-2. 操作方法	15
4-3. 設定項目	17
5. 1対N照合モード	18
5-1. 機能概要	18
5-2. 操作方法	18
5-3. 設定項目	21
6. 設定方法	22
6-1. バーコードを読み取って設定	22
6-2. 設定ツールで設定	24
6-3. アプリケーションからの一括設定	25
7. 設定内容	26
8. 設定初期化	37
9. RF タグデータの読み取り (ISO15693 準拠の RF タグ)	38
10. RF タグデータの書き込み (ISO15693 準拠の RF タグ)	39
11. 状態早見表	41
12. 付録	42
12-1. ペアリングバーコード	42
12-2. アドレスバーコード	42
12-3. アドレスバーコード(1桁入力用)	43
12-4. 設定データ	44
12-5. 設定バーコード	48
12-6. ホスト制御	57
13. 困ったときには	59

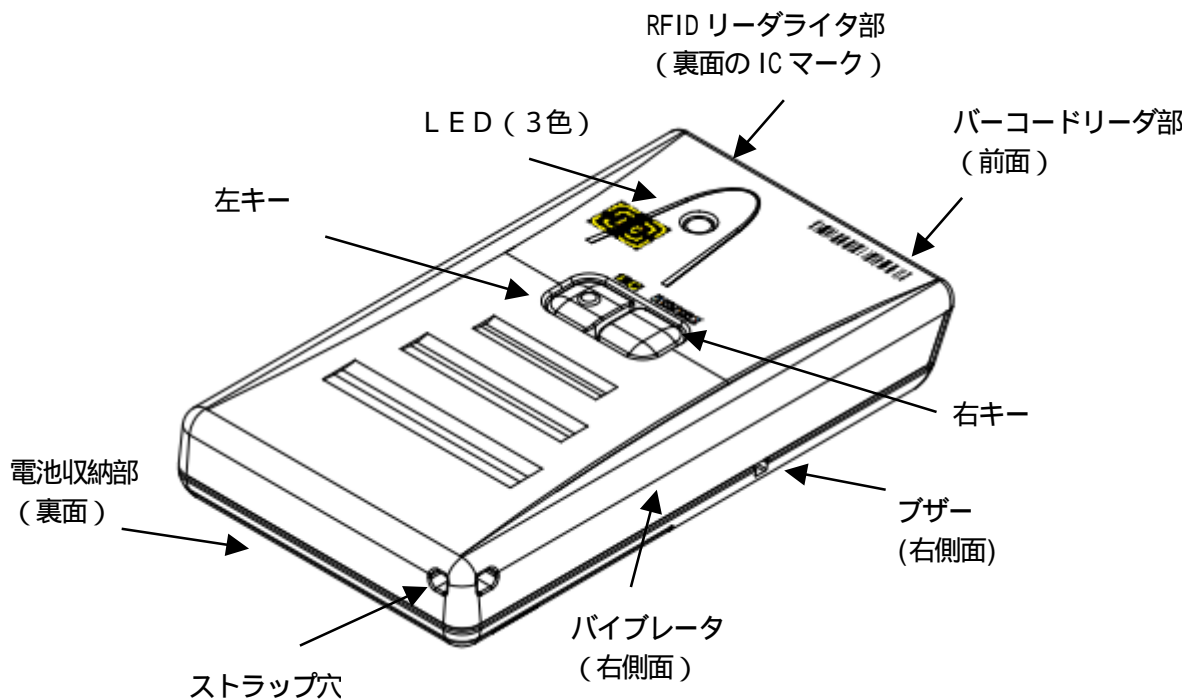
1. 概要

DHS-132A / DHS-132AP は、バーコードリーダおよびRFIDリーダライタを搭載したBluetoothハンデイスキャナです。本機1台で、スキャナモード、1対1照合モード、1対N照合モードの3つの機能をお使いいただけます。

- ・スキャナモード バーコードデータ、RF タグデータを読み取って、Bluetooth通信でリアルタイム送信します。
RF タグはISO15693 準拠タグとFeliCaに対応しています。
Bluetooth プロファイルは、SPP (Serial Port Profile) とHID (Human Interface Device) に対応しています。
Bluetooth のペアリング方式はSSP (Secure Simple Pairing) およびPINコードに対応しています。本機のPINコードは"3939"です。
- ・1対1照合モード バーコードの照合を行い、結果をブザーとバイブレータでお知らせします。
1つのバーコードに対し、1つのバーコードとの照合を行います。
- ・1対N照合モード バーコードの照合を行い、結果をブザーとバイブレータでお知らせします。
1つのバーコードに対し、複数のバーコードとの照合を行います。

1対1照合モード、1対N照合モードではRFタグ読み取りおよびBluetooth通信を行いません。

2. 各部の名称



DHS-132A/DHS-132AP Bluetooth®ハンデイスキャナ
(バーコードリーダ・RFIDリーダライタ搭載モデル)

3. スキャナモード

3-1. 機能概要

バーコードデータ、RF タグデータを読み取り、Bluetooth 通信でリアルタイム送信します。

バーコードの読み取り可能コードは、JAN/EAN (8 又は 13) UPC-A 又は UPC-E、Code39、NW-7、ITF、Code128、GS 1-128、Industrial2of5、新雑誌コードです。

RFID は ISO15693 準拠のタグ (I-CODE SLI/SLIX、Tag-it HF-I Plus/Pro/Standard、my-d SRF55V10P/SRF55V02P、Fujitsu MB89R118/MB89R119) と FeliCa に対応しています。 **Fujitsu タグは DHS-132A のみ対応**

RF タグが ISO15693 準拠の場合は、UID とデータを読み取ります。RF タグヘデータを書き込むこともできます。RF タグが FeliCa の場合は、IDm を読み取ります。

Bluetooth プロファイルは、SPP (Serial Port Profile) と HID (Human Interface Device) に対応しています。SPP の場合、送信データはシリアルデータとなります。

HID の場合、送信データはキーボード入力されます。また HID で iOS 機器 (iPhone や iPad など) と接続している場合、ソフトウェアキーボードの表示/非表示を切り替えることができます。

Bluetooth のペアリング方式は SSP (Secure Simple Pairing) および PIN コードに対応しております。本機の PIN コードは "3939" です。

3-2. 操作方法 (接続前)

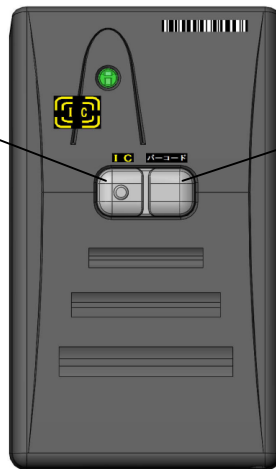
左キー動作

起動時

短押し：接続
長押し：ペアリング
モードに移行

Bluetooth 接続中

短押し：RF タグ読み取り
長押し：ソフトキー表示/非表示
(HID で iOS と接続時)



右キー動作

起動時

短押し：バーコード読み取り
長押し：接続

Bluetooth 接続中

短押し：バーコード読み取り
長押し：ソフトキー表示/非表示
(HID で iOS と接続時)

キー操作の割り当ては設定で変更可能です

電源オフの状態ではキーを押すと、Bluetooth 接続を行います。

Bluetooth 接続は、以下の操作より選択できます。

- ・ペアリングモードにし、ペアリング要求のあった機器へ『マスタ接続』
- ・前回の接続先へ『マスタ接続』
- ・アドレスバーコードを読み取って、『マスタ接続』
- ・アドレスバーコード (1桁) を読み取って、『マスタ接続』
- ・『スレーブ接続』 (工場出荷状態より、設定を変える必要があります。SPP 通信の場合のみ使用できます。)

なお、接続後の操作方法については、「[3-3. 操作方法 \(接続後\)](#)」をご参照下さい。
各動作の説明をします。

3-2-1. ペ어링モードにして、ペ어링要求のあった機器へ『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP,HID) 以下のどちらかの操作を行いペ어링待ち状態にします。

左キーを5秒間長押しし、LEDが青く点灯したら離す。

右キーを短く押し、ペ어링バーコードを読ませる。

ペ어링待ち状態になったら、接続したい機器よりペ어링を行って下さい。

デバイス名は、『DHS-100A xxxxxx』となります。xxxxxxは、機器IDです。

接続機器側でPINコードの入力画面が表示された場合は"3939"を入力して下さい。

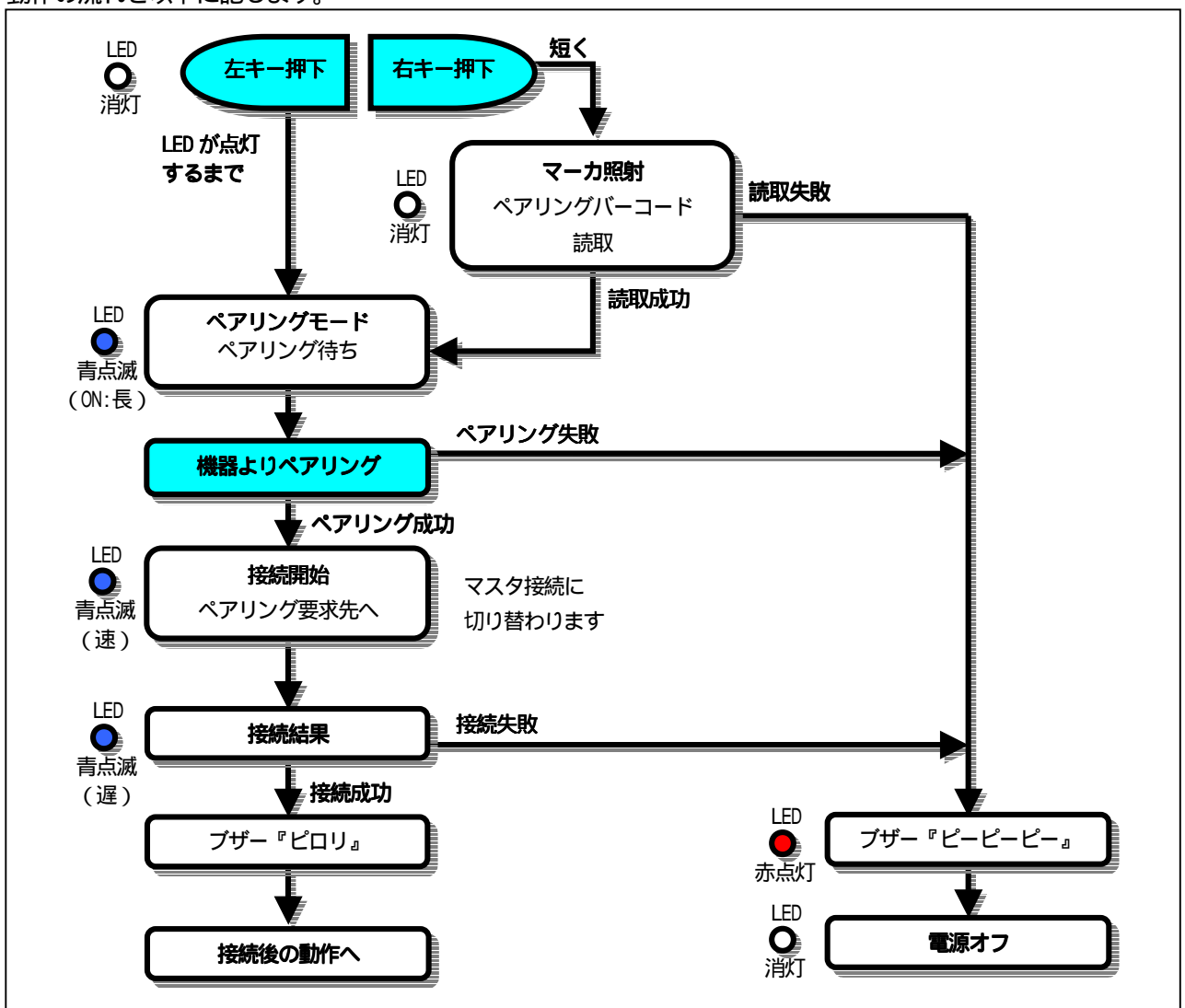
ペ어링が完了すると、DHS-132A/DHS-132APから接続を開始し、ブザーが『ピロリ』と鳴ると接続完了です。

一度ペ어링した機器は登録され、電源オフしても消えません。

ただし以下の操作を行うとペ어링情報が消去されます。この場合は再度ペ어링を行って下さい。

- ・再度ペ어링モードにする
- ・設定で【通信方法】を変更する

動作の流れを以下に記します。



この動作の基本設定：【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】

ペ어링バーコードについては、「[12-1. ペ어링バーコード](#)」を参照して下さい。

ペ어링を行うと【通信】 - 【マスタ】設定に変更されます。スレーブで使用される場合は設定バーコードまたは設定ツールで【スレーブ】に変更して下さい。

3-2-2. 前回の接続先へ『マスタ接続』(対応プロファイル: SPP、HID)

以下のどちらかの操作を行うと、前回の接続先へ接続を開始します。

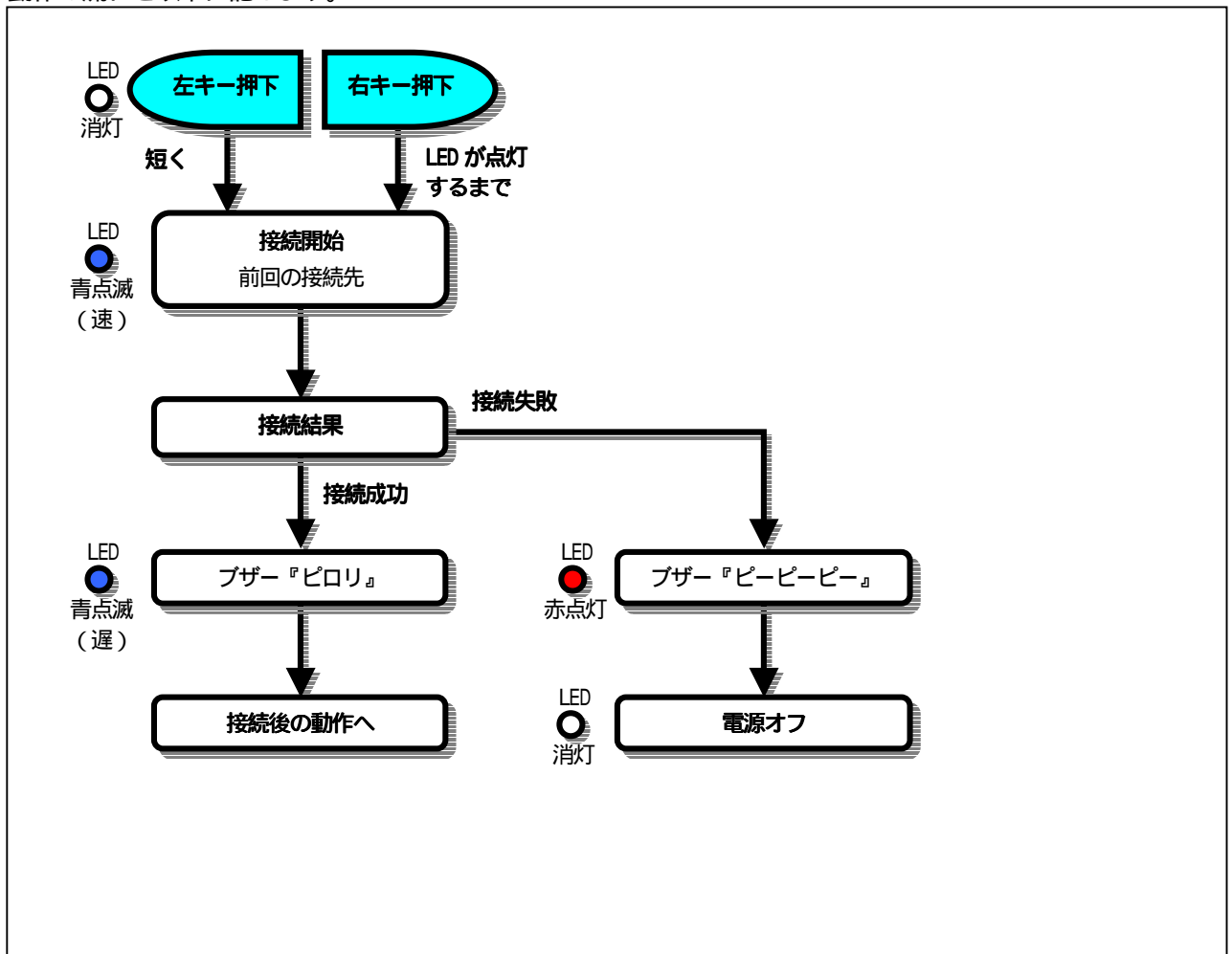
左キーを短く押す。

右キーを3秒間長押しし、LEDが青く点灯したら離す。

ブザーが『ピロリ』と鳴ると接続が完了します。

前回の接続先の情報が無い場合は、キーを押した後すぐにブザーが『ピーピーピー』と鳴り接続失敗します。この場合は一度ペアリングモードにして接続したい機器よりペアリングを行って下さい。

動作の流れを以下に記します。



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
【通信】 - 【接続モード】 - 【マスタ】

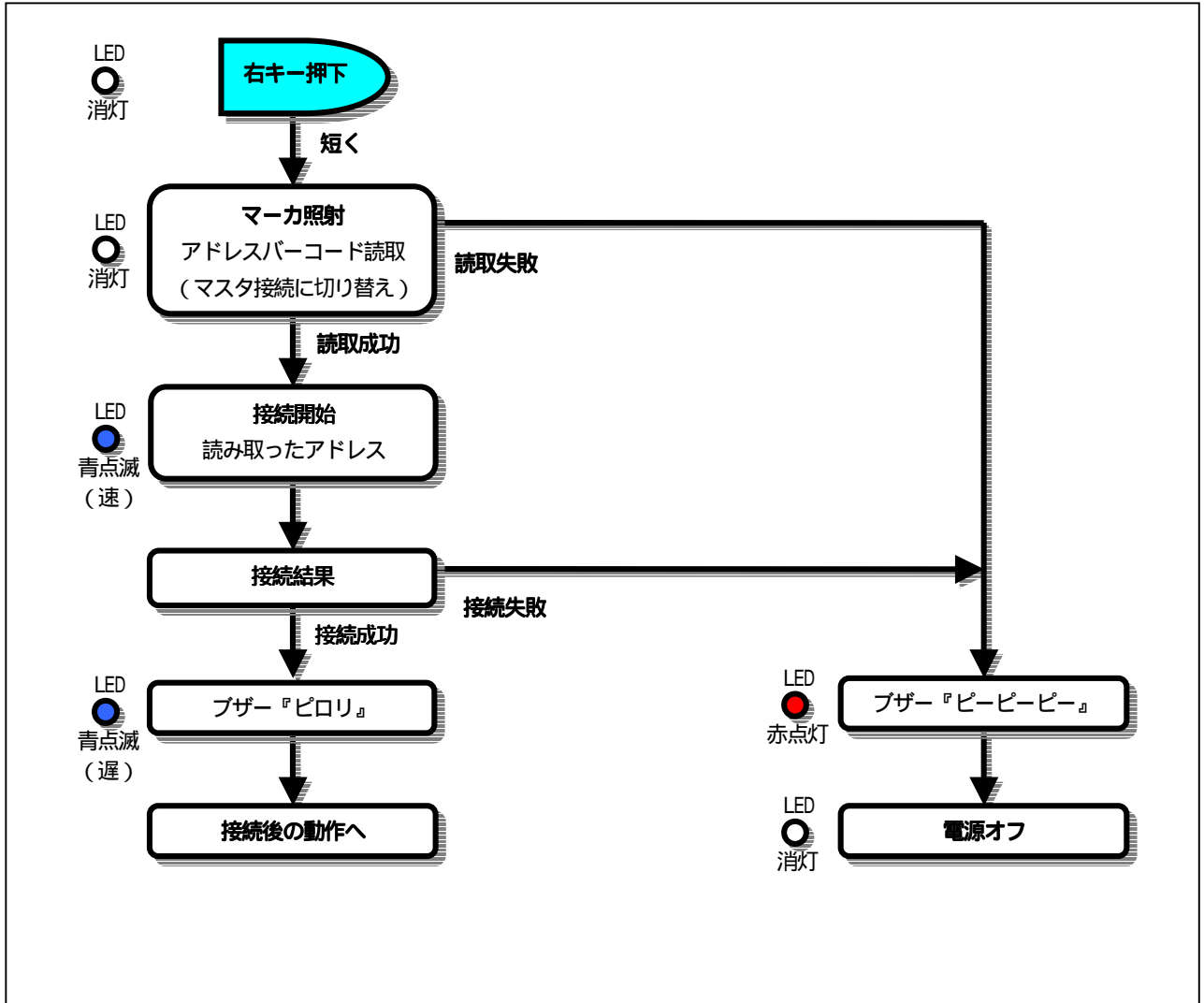
3-2-3. アドレスバーコードを読み取って『マスタ接続』(対応プロファイル: SPP、HID)

右キーを短く押し、アドレスバーコードを読ませます。すると、そのアドレスへ接続を開始し、ブザーが『ピロリ』と鳴ると接続が完了します。

一度読み取ったアドレスは登録され、電源オフしても消えません。

HID の場合、相手機器によっては接続できないことがあります。その場合は「[3-2-1. ペアリングモードにして、ペアリング要求のあった機器へ『マスタ接続』](#)」を試して下さい。

動作の流れを以下に記します。



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
【通信】 - 【接続モード】 - 【マスタ】

アドレスバーコードについては、「[12-2. アドレスバーコード](#)」を参照してください。
ペアリングを行うと【通信】 - 【マスタ】設定に変更されます。

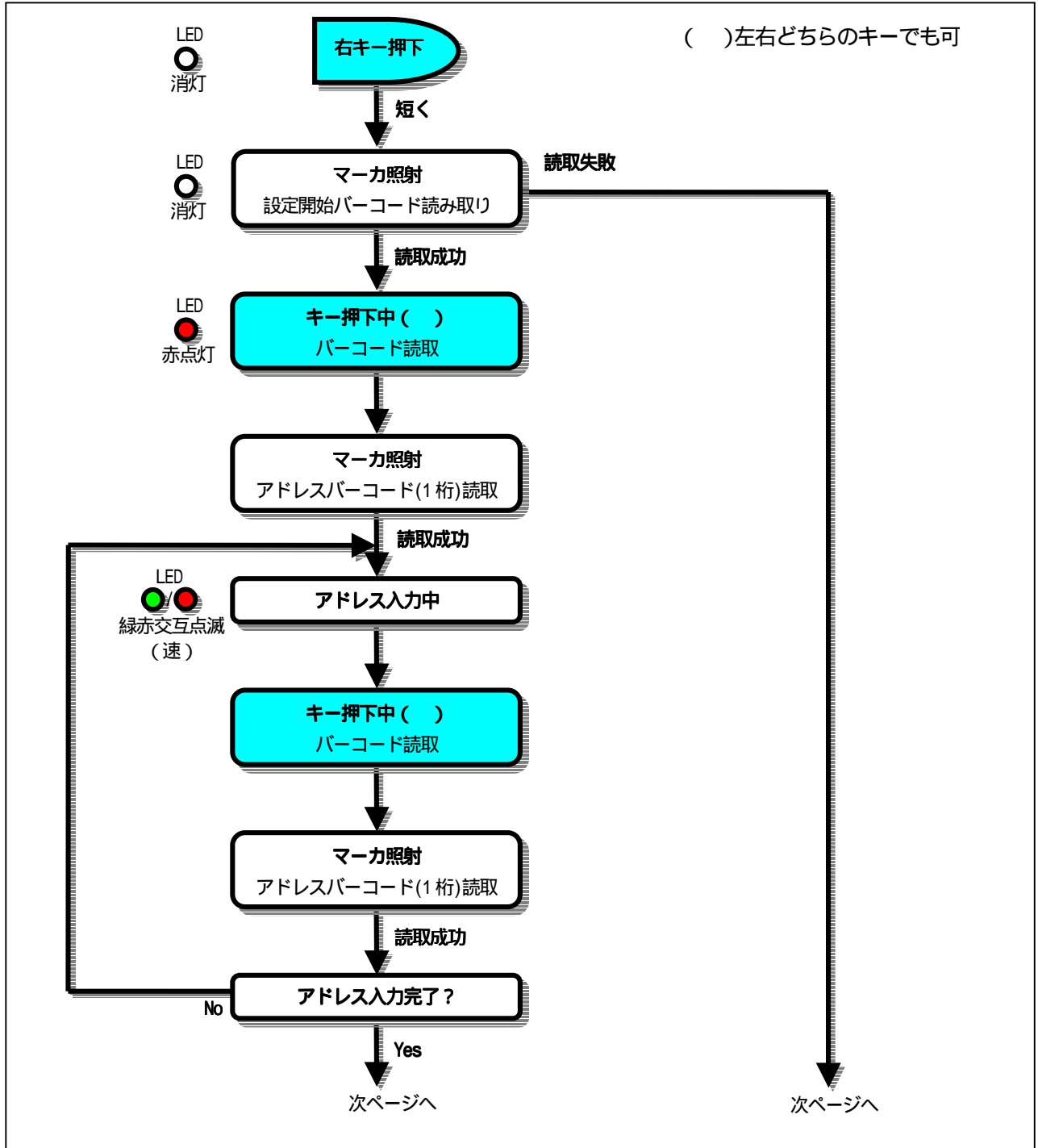
3-2-4. アドレスバーコード(1桁)を読み取って『マスタ接続』(対応プロファイル:SPP、HID)

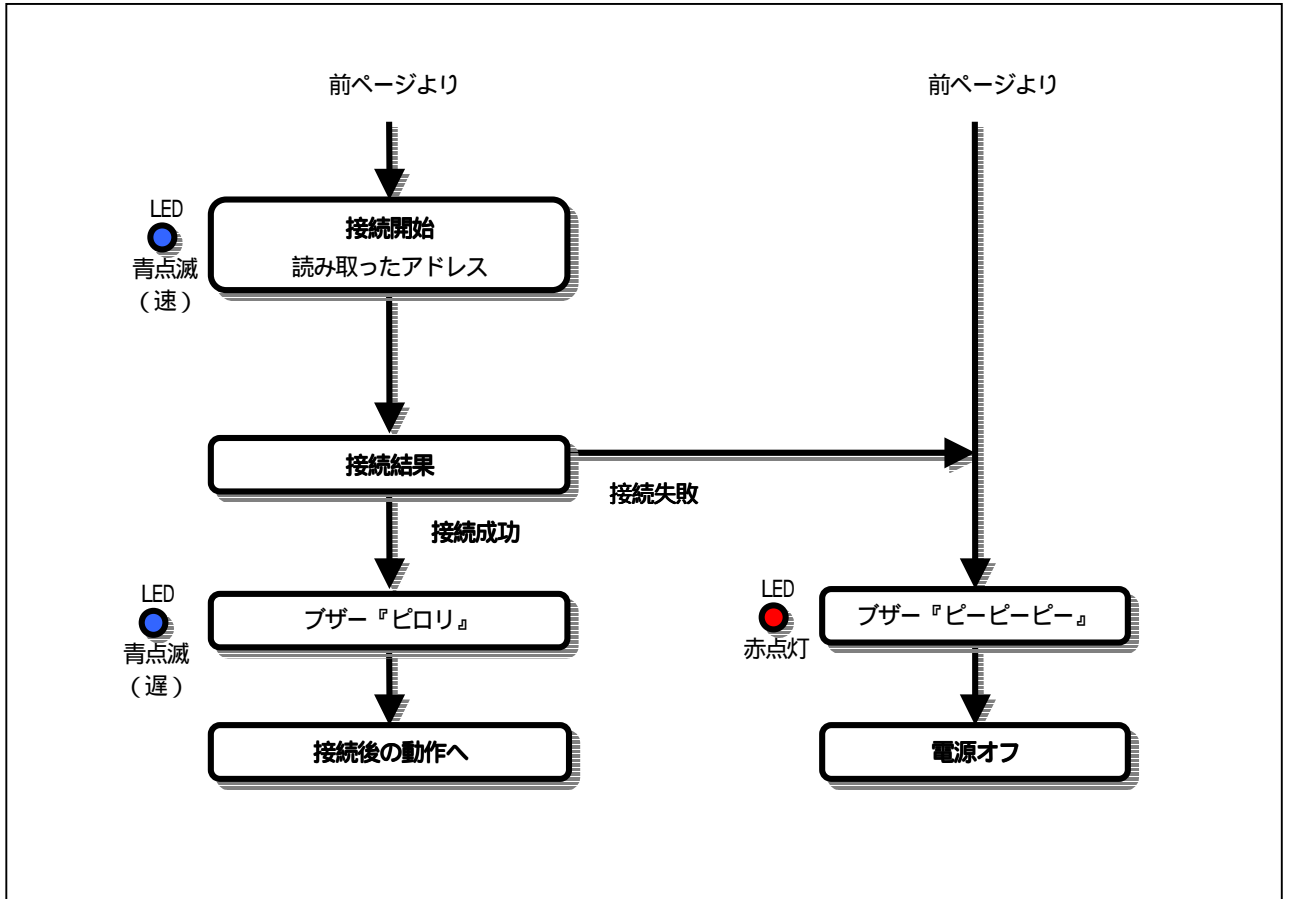
右キーを短く押し、設定開始バーコードを読ませます。アドレスバーコード(1桁)を12回読み取ると、そのアドレスへ接続を開始し、ブザーが『ピロリ』と鳴ると接続が完了します。

一度読み取ったアドレスは登録され、電源オフしても消えません。

HIDの場合、相手機器によっては接続できないことがあります。その場合は「[3-2-1. ペアリングモードにして、ペアリング要求のあった機器へ『マスタ接続』を試して下さい。](#)」

動作の流れを以下に示します。





この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】

アドレスバーコード(1桁)については「[12-3. アドレスバーコード\(1桁入力用\)](#)」を参照して下さい。
ペアリングを行うと【通信】 - 【マスタ】設定に変更されます。

3-2-5. 『スレーブ接続』(対応プロファイル：SPP)

この方法は、工場出荷状態より、設定を変える必要があります。またこの方法はSPPの場合のみ行うことができます。

以下のどちらかの操作を行うと、接続待ちになります。

左キーを短く押す。

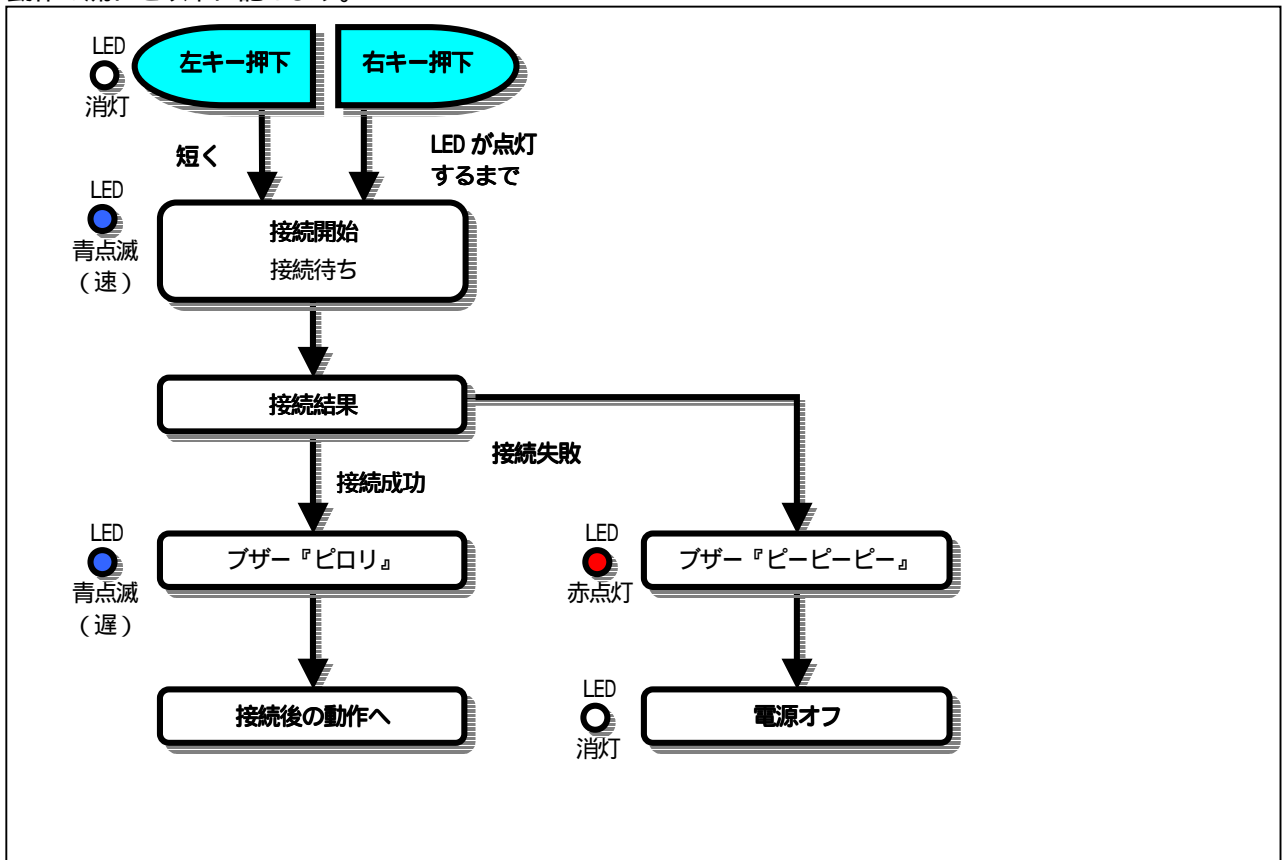
右キーを3秒間長押しし、LEDが青く点灯したら離す。

LEDが青色に速く点滅しますので、接続したい機器より接続を行って下さい。

ブザーが『ピロリ』と鳴ると接続が完了です。

なお、ペアリングを行うと「スレーブ接続」から「マスタ接続」に切り替わりますので、ペアリング後は「スレーブ接続」に設定し直して下さい。

動作の流れを以下に記します。



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
【通信】 - 【接続モード】 - 【スレーブ】

3-2-6. 『デモ動作』

この方法は、工場出荷状態より、設定を変える必要があります。

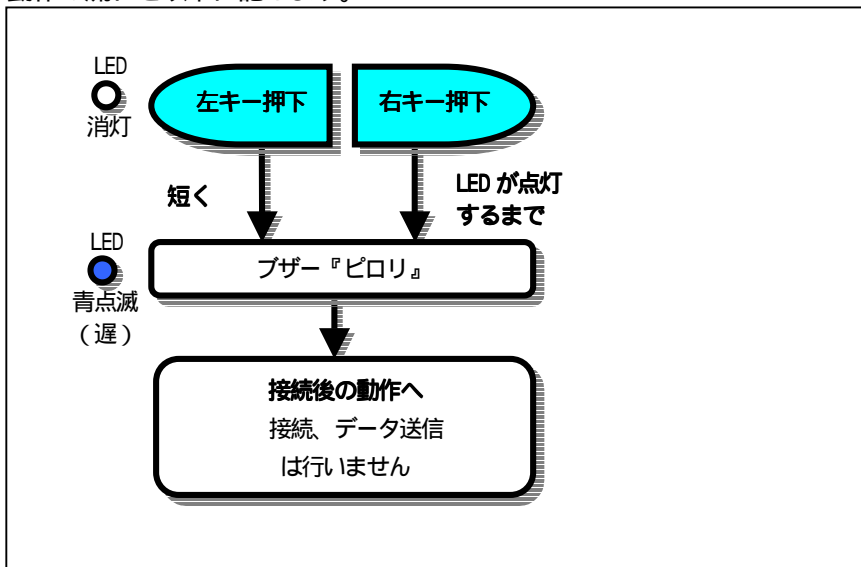
この方法ではBluetooth 接続は行わず、接続後の読み取り動作を再現します。接続を行わないデモ動作ですのでデータ送信は行いません。

以下のどちらかの操作を行うと、ブザーがピロリと鳴り、接続後の動作になります。

左キーを短く押す。

右キーを3秒間長押しし、LED が青く点灯したら離す。

動作の流れを以下に記します。



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
【通信】 - 【接続モード】 - 【接続しない】

3-3. 操作方法（接続後）

RF タグを本体裏面の IC マーク（本体 LED の裏側辺り）に当てて、左キーを押すと RF タグ読み取りを行います（図 1）。
右キーを押すとバーコード読み取りを行います（図 2）。

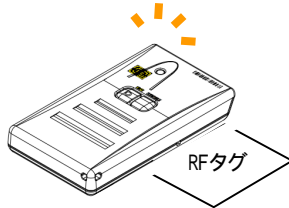


図 1

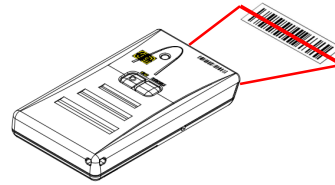


図 2

読み取り成功すると、データを送信します。
読み取り中に反対側のキーを押すと、読み取り動作を中止して、新たに押されたキーでの読み取り動作を行います。
終了する場合は、左右どちらかのキーを 7 秒以上長押しして電源オフします。

HID でご使用になる場合

- 読み取りを行う際は、あらかじめ接続機器の入力フィールドにカーソルを移動しておいて下さい（図 3）。
- iOS 機器と接続している場合は、キーを 3 秒間押すと接続機器のソフトキーボードを表示/非表示させることができます。
- 送信したデータが正しく表示されない場合は、「HID 文字間タイムアウト」および「HID キー変換」が正しく設定されているかご確認ください。
- 通信距離や電波環境等によりデータが正しく入力されない場合がありますのでご注意ください。
ご使用の環境であらかじめ動作を確認することをおすすめします。

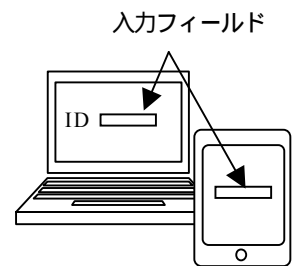


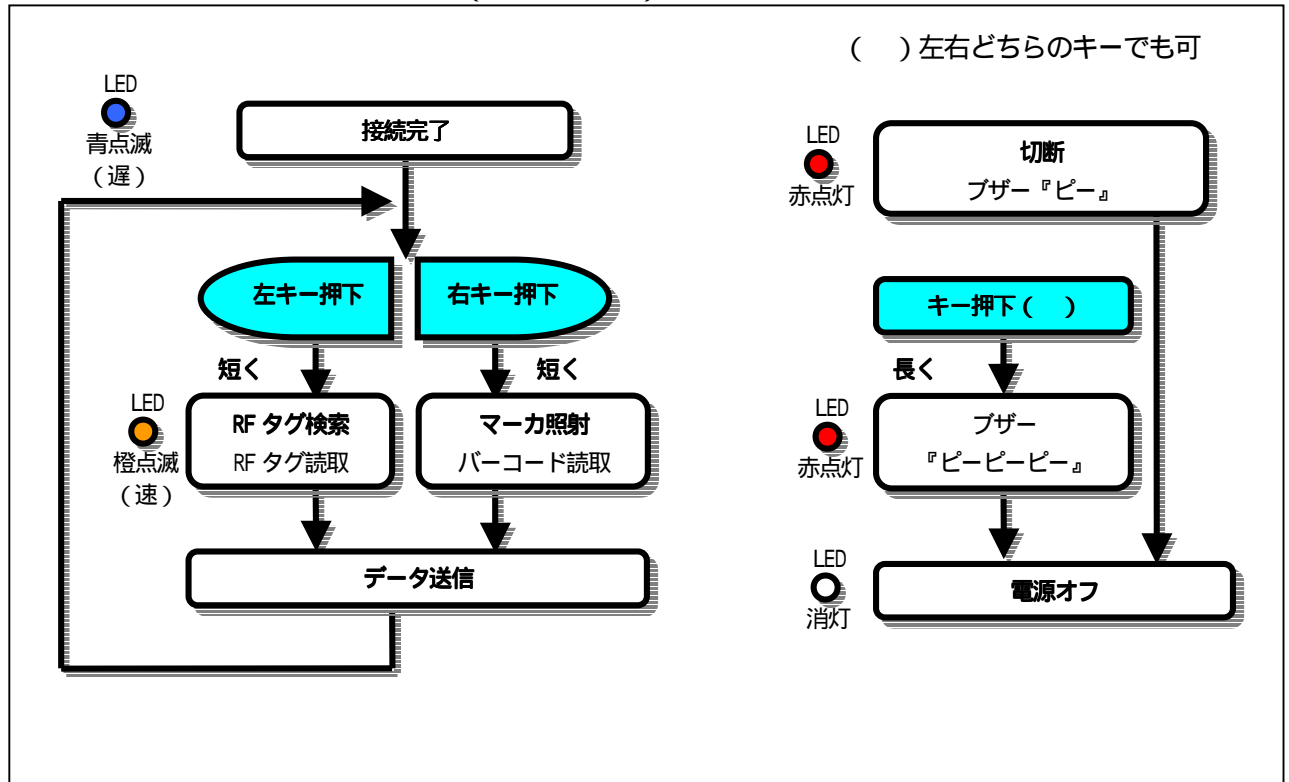
図 3

連続スキャンについて

連続スキャンを設定している場合は、連続的に読み取り動作を行います。キーを押すと読み取り動作を開始します。動作中は次々と読み取りを行い、同じキーを押すと読み取り動作を中断します。何も読み取らずに 10 秒経過した場合も自動的に読み取りを中断します。

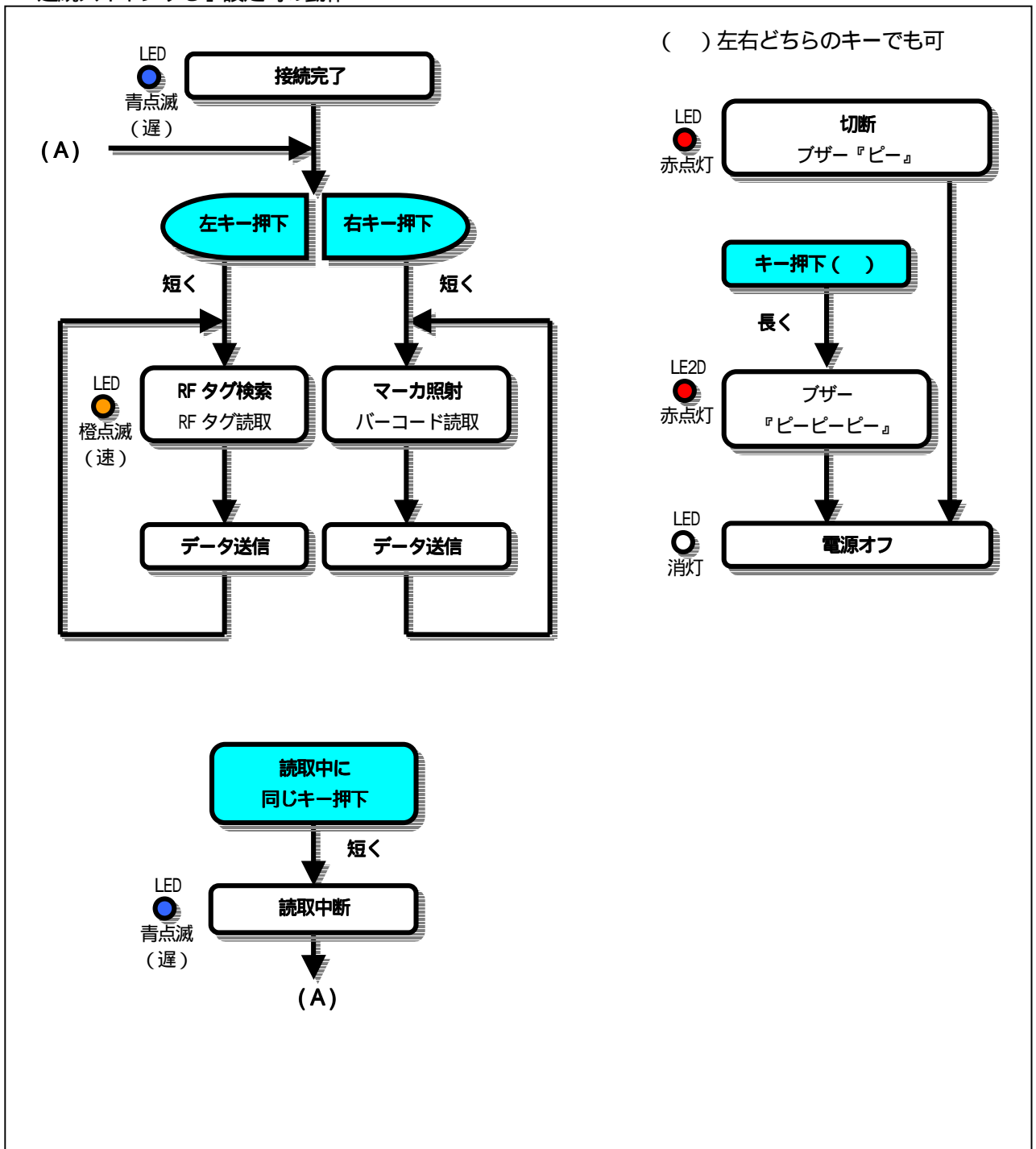
連続スキャンしない設定の場合とする設定の場合それぞれの動作の流れを示します。

・「連続スキャンしない」設定時の動作（工場出荷状態）



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
 【デバイス】 - 【連続スキャン】 - 【しない】

・「連続スキャンする」設定時の動作



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【スキャナモード】
 【デバイス】 - 【連続スキャン】 - 【する】

3-4. 設定項目

スキャナモードで使用する設定項目は以下の通りです。

設定一覧 (: 工場出荷設定)

[読み取りバーコード]

JAN/EAN/UPCE

読み取る(UPC-Aは13桁)
読み取る(UPC-Aは12桁)
読み取らない

ITF

ITFとして読む
ITF-6,14,16として読む
読み取らない

NW7

スタートストップ 付
スタートストップ 無
スタートストップ 付, CD
スタートストップ 無, CD
読み取らない

Code39

スタートストップ 付
スタートストップ 無
スタートストップ 付, CD
スタートストップ 無, CD
読み取らない

Code128

読み取る
読み取らない

Industrial-2of5

読み取る
読み取らない

GS1-128(旧称UCC/EAN-128)

読み取る
読み取らない

新雑誌コード

読み取る
読み取らない

[RFID]

ISO15693

UID 読み取る
データ 読み取る
UID + データ 読み取る
読み取らない

FeliCa

IDm 読み取る
読み取らない

データ位置(ISO15693の設定)

0~2047 (0)

データ長さ(ISO15693の設定)

1~2048 (1)

データ変換(ISO15693の設定)

固定長
可変長

[通信]

接続モード

マスタ
スレーブ
接続しない

通信方式

SPP 通信
HID 通信(通常)

応答確認(通信方式がSPPのみ設定有効)

無し
ACK

ホスト制御(通信方式がSPPのみ設定有効)

無し
有り

HIDキー変換(通信方式がHIDのみ設定有効)

英語キーボード
日本語キーボード

HID文字間タイムアウト(通信方式がHIDのみ設定有効)

0~50 (0) 単位: 10ms

[デバイス]
2度読み防止

無し
有り

ブザー音

パターン [バーコード1回、RFID1回]
 パターン [バーコード1回、RFID2回]
 パターン [バーコード2回、RFID1回]
 無し

バイブレータ

パターン [バーコード1回、RFID1回]
 パターン [バーコード1回、RFID2回]
 パターン [バーコード2回、RFID1回]
 無し

連続スキャン

しない
する

メイン動作

スキャナモード
 1対1照合モード
 1対N照合モード

[データ]
先頭付加

無し
 Symbol 準拠
 AIM 準拠

終端付加

無し
 CR
 LF
 TAB
 ETX(STX)

[電源管理]
自動オフ

0 (自動オフしない)
 1~99分 (5分)

[データ項目]
区切り設定

CR
 LF
 TAB
 カンマ

機器 ID 付加

しない
 する

[キー操作]
起動時 左キー

バーコード読み取り
 Bluetooth 接続

起動時 右キー

バーコード読み取り
 Bluetooth 接続

Bluetooth 接続中 左キー

バーコード読み取り
 RF タグ読み取り

Bluetooth 接続中 右キー

バーコード読み取り
 RF タグ読み取り

[長押し時間]
前回の接続先に接続

2~10秒 (3秒)

ペアリングモードへ移行

2~10秒 (5秒)

ソフトキーON

1~9秒 (3秒)

電源オフ

2~10秒 (7秒)

4. 1対1照合モード

4-1. 機能概要

1つの照合元バーコードに対して1つの照合対象バーコードと照合を行い、結果をお知らせします。バーコード同士を単純に照合する他に、バーコードの一部分を比較する事も出来ます。照合結果をお知らせすると、自動的に電源を切ります。

照合モードでは、【キー操作】の設定に関わらず、左右どちらのキーを押してもバーコード読み取りを行います。

4-2. 操作方法

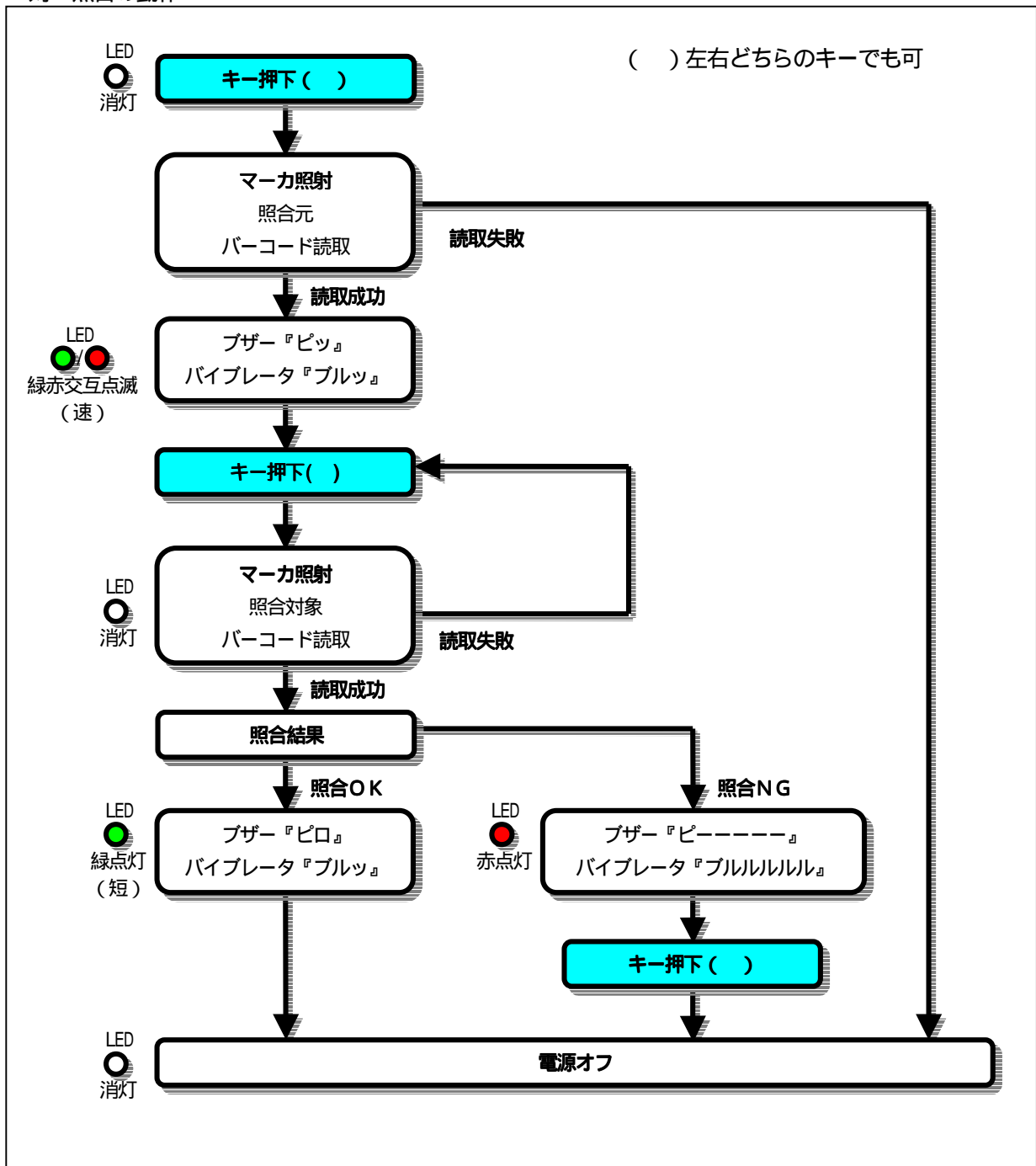
キーを押し、照合元バーコードを読ませて下さい。読み取れたらブザーが『ピッ』と鳴ります。続けてキーを押し、照合対象バーコードを読み取って下さい。連続スキャンを設定している場合は、照合元バーコードを読み取るとすぐに照合対象バーコードの読み取り動作が開始されます。

照合対象バーコードが読み取れたら、照合元、照合対象のバーコードの内容を比較し、結果が通知されます。照合OKの場合は、OK通知(ブザー『ピロ』、バイブレータ『ブルッ』)をして電源が切れます。照合NGの場合は、NG通知(ブザー『ピーー』、バイブレータ『ブルルルルルル』)をします。キーを押すとNG通知が止まり電源が切れます。

照合対象読み取り中にキーを長押しすると、ブザーが『ピーピーピー』と鳴り電源が切れます。

次ページに動作の流れを記します。

1対1照合の動作



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【1対1照合モード】
【デバイス】 - 【連続スキャン】 - 【しない】

4-3. 設定項目

1対1照合で使用する設定項目は以下の通りです。

設定一覧 (: 工場出荷設定)

[照合元バーコード]

JAN/EAN/UPCE

読み取る
読み取らない

ITF

ITF として読む
ITF-6, 14, 16 として読む
読み取らない

NW7

スタートストップ 付
スタートストップ 無
スタートストップ 付, CD
スタートストップ 無, CD
読み取らない

Code39

スタートストップ 付
スタートストップ 無
スタートストップ 付, CD
スタートストップ 無, CD
読み取らない

Code128

読み取る
読み取らない

Industrial-2of5

読み取る
読み取らない

GS1-128(旧称 UCC/EAN-128)

読み取る
読み取らない

新雑誌コード

読み取る
読み取らない

[照合対象バーコード]

項目内容および工場出荷設定は
照合元バーコードと同様です。

[照合動作]

照合方法

単純照合
部分照合

照合元開始桁

1~99 (1)

照合対象開始桁

1~99 (1)

照合桁数

1~99 (1)

[デバイス]

2度読み防止

無し
有り

ブザー音

パターン [バーコード1回、RFID1回]
パターン [バーコード1回、RFID2回]
パターン [バーコード2回、RFID1回]
無し

バイブレータ

パターン [バーコード1回、RFID1回]
パターン [バーコード1回、RFID2回]
パターン [バーコード2回、RFID1回]
無し

連続スキャン

無し
有り

メイン動作

スキャナモード
1対1照合モード
1対N照合モード

[電源管理]

自動オフ

0 (自動オフしない)
1~99分 (5分)

5. 1対N照合モード

5-1. 機能概要

1つの照合元バーコードに対して複数の照合対象バーコードと照合を行い、結果をお知らせします。バーコード同士を単純に照合する他に、バーコードの一部分を比較する事も出来ます。照合NGの際に、照合対象を読み取り直すか、照合元を読み取り直すかを設定で選べます。

照合モードでは、【キー操作】の設定に関わらず、左右どちらのキーを押してもバーコード読み取りを行います。

5-2. 操作方法

キーを押し照合元バーコードを読ませて下さい。読み取れたらブザーが『ピッ』と鳴ります。

続けてキーを押し照合対象バーコードを読み取って下さい。

連続スキャンを設定している場合は、すぐに読み取り動作を開始します。キーを押すと読み取り動作を中断および再開します。

照合対象バーコードが読み取れたら、照合元、照合対象のバーコードの内容を比較し、結果を通知します。

照合OKの場合は、OK通知(ブザー『ピロ』、バイブレータ『ブルッ』)となります。

照合NGの場合は、NG通知(ブザー『ピーー』、バイブレータ『ブルルルルルル』)となります。

キーを押すとNG通知が止まります。

「NG時 次読み取り」を「照合元」に設定している場合はキーを押すと電源が切れます。

以下、 を繰り返して照合を行います。

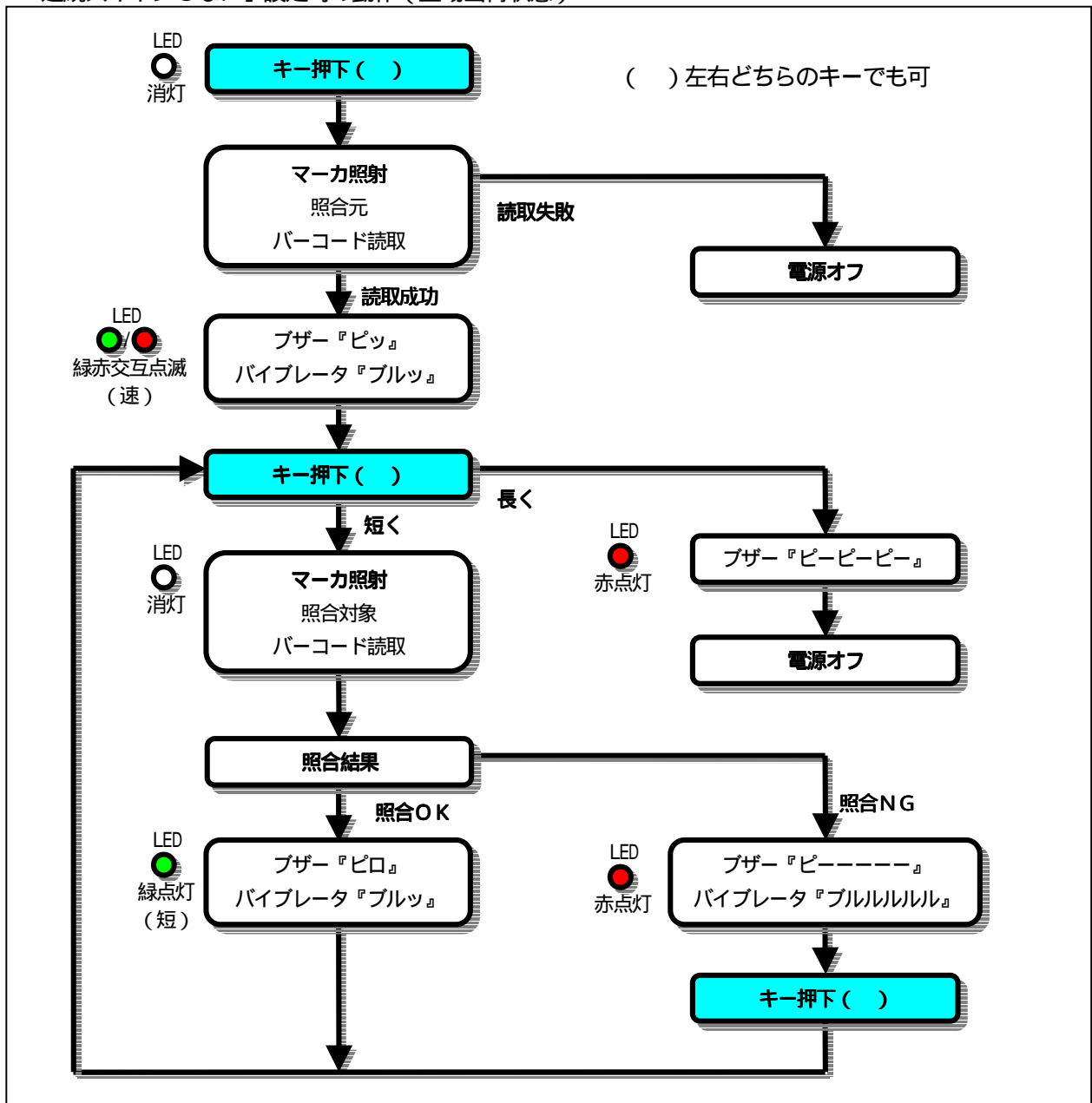
照合対象読み取り中にキーを長押しすると、ブザーが『ピーピーピー』と鳴り電源が切れます。

連続スキャンについて

連続スキャンを設定している場合は、連続的に読み取り動作を行います。キーを押すと読み取り動作を開始します。動作中は次々とバーコード読み取りを行い、再度キーを押すと読み取り動作を中断します。何も読み取らずに10秒経過した場合も自動的に読み取りを中断します。

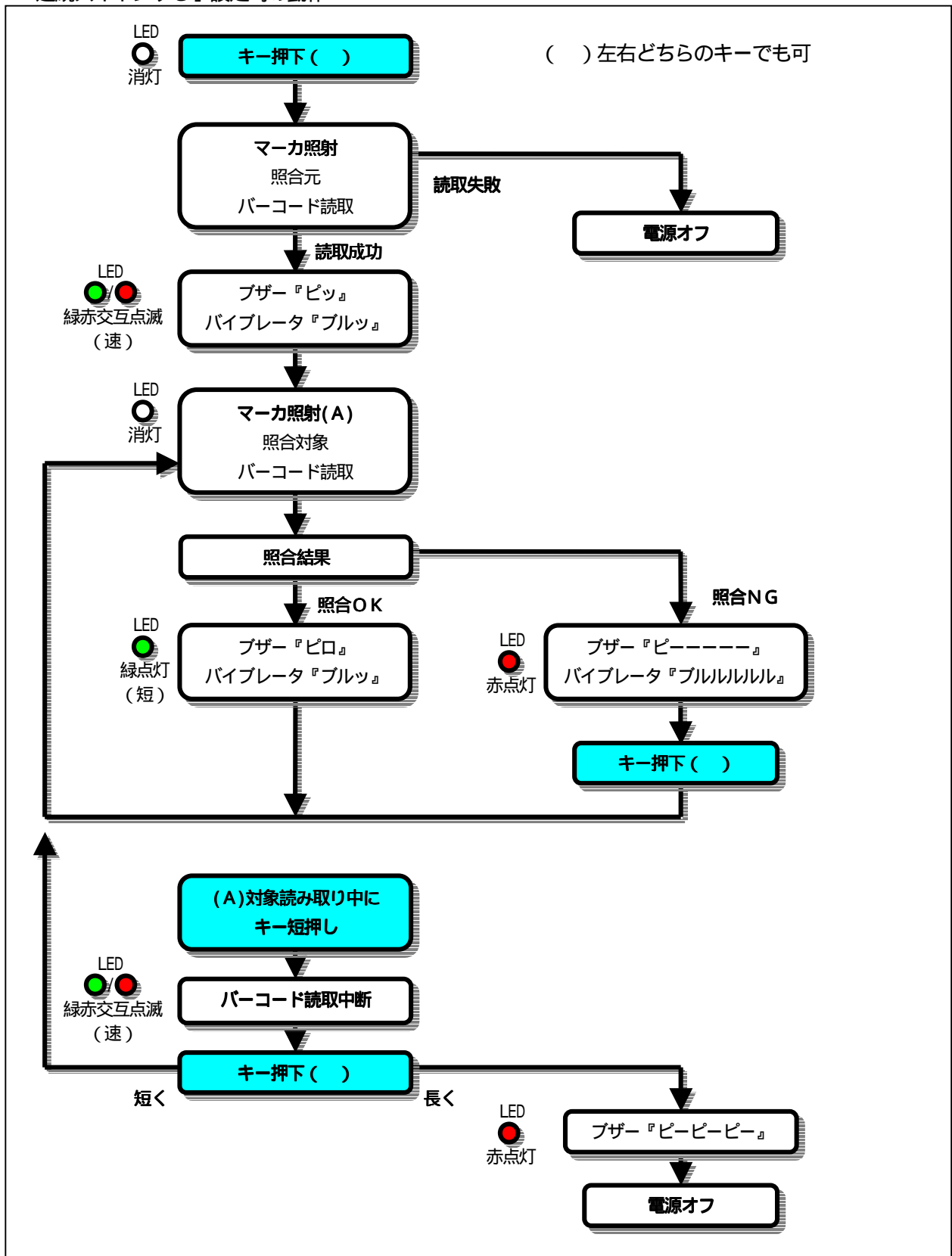
連続スキャンしない設定の場合とする設定の場合それぞれの動作の流れを次ページに示します。

・「連続スキャンしない」設定時の動作（工場出荷状態）



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【1対N照合モード】
【デバイス】 - 【連続スキャン】 - 【する】

・「連続スキャンする」設定時の動作



この動作の基本設定： 【デバイス】 - 【動作モード】 - 【1対N照合モード】
【デバイス】 - 【連続スキャン】 - 【する】

5-3. 設定項目

1対N照合で使用する設定項目は以下の通りです。

設定一覧 (: 工場出荷設定)

[照合元バーコード]

JAN/EAN/UPCE

読み取る
読み取らない

ITF

ITF として読む
ITF-6, 14, 16 として読む
読み取らない

NW7

スタートストップ付
スタートストップ無
スタートストップ付, C D
スタートストップ無, C D
読み取らない

Code39

スタートストップ付
スタートストップ無
スタートストップ付, C D
スタートストップ無, C D
読み取らない

Code128

読み取る
読み取らない

Industrial-2of5

読み取る
読み取らない

GS1-128(旧称 UCC/EAN-128)

読み取る
読み取らない

新雑誌コード

読み取る
読み取らない

[照合対象バーコード]

項目内容および工場出荷設定は
照合元バーコードと同様です。

[照合動作]

照合方法

単純照合
部分照合

NG時 次読み取り

照合対象
照合元

照合元開始桁

1~99 (1)

照合対象開始桁

1~99 (1)

照合桁数

1~99 (1)

[デバイス]

2度読み防止

無し
有り

ブザー音

パターン [バーコード1回、RFID1回]
パターン [バーコード1回、RFID2回]
パターン [バーコード2回、RFID1回]
無し

バイブレータ

パターン [バーコード1回、RFID1回]
パターン [バーコード1回、RFID2回]
パターン [バーコード2回、RFID1回]
無し

連続スキャン

無し
有り

メイン動作

スキャナモード
1対1照合モード
1対N照合モード

[電源管理]

自動オフ

0 (自動オフしない)
1~99分 (5分)

6. 設定方法

設定は、以下の何れかの方法にて行います。

- ・バーコードを読み取って設定
- ・設定ツールで設定（パソコンを使用。SPP 通信の場合のみ行うことができます。）
- ・アプリケーションからの一括設定（SPP 通信の場合のみ行うことができます。）

6-1. バーコードを読み取って設定

工場出荷状態、または【キー操作】 - 【起動時】の【左キー】【右キー】のうちどちらか一方が【バーコード読み取り】に設定されていれば、この方法で設定できます。

キーを短く押し、設定開始バーコードを読み取ると、設定可能な状態になります。

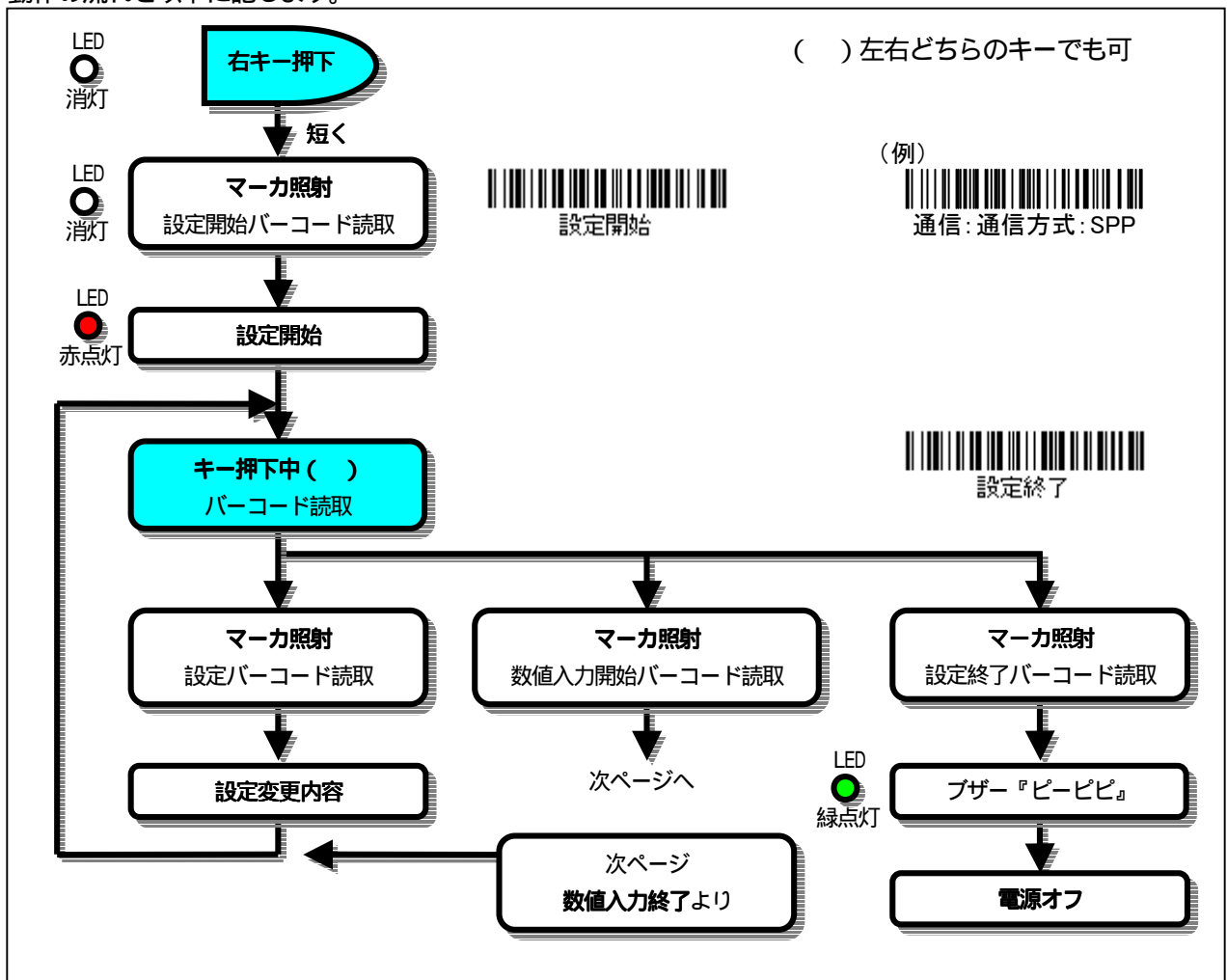
この状態で各設定バーコードを読ませると、すぐに設定を行います。

設定を終了するには、設定終了バーコードを読ませます。すると、ブザーが『ピーピピ』と鳴り電源オフします。

なお、数値で設定する項目については、各項目の数値入力開始バーコードを読ませた後、1桁バーコードを読ませて設定を行います。

詳細は次ページを参照下さい。

動作の流れを以下に記します。



設定バーコードは、「[12 - 5 . 設定バーコード](#)」を参照。

）数値で設定する項目の設定手順

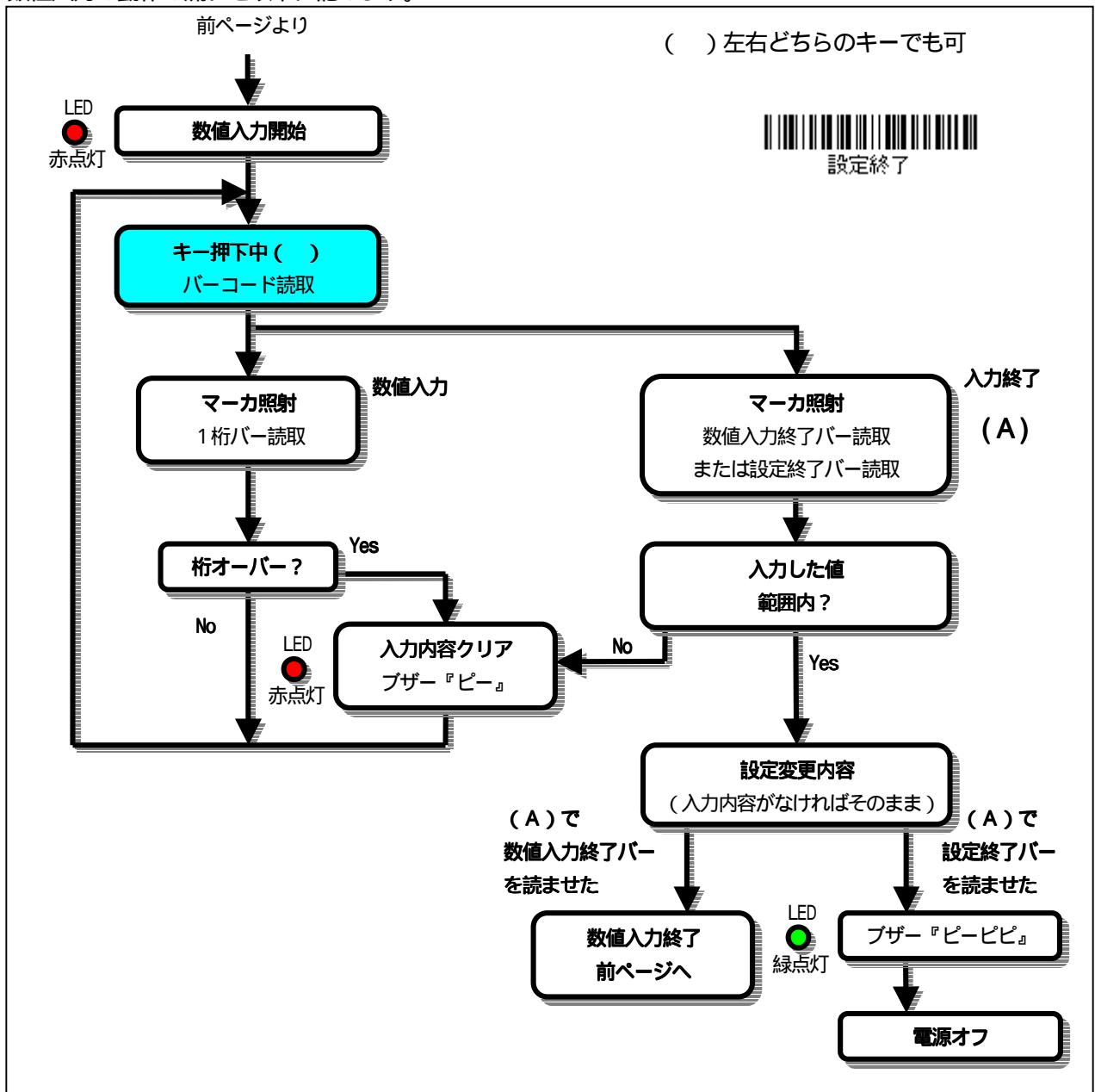
設定開始バーコードを読ませて設定開始後、設定したい項目の入力開始バーコードを読ませます。

1桁バーコードを読ませて設定したい値を1桁ずつ入力します。

数値入力終了バーコードもしくは設定終了バーコードを読み取ると、入力中の値を設定し数値入力を終了します。設定終了バーコードを読み取った場合、設定後、電源オフします。数値入力終了バーコードを読み取った場合、数値入力を終了し前ページの設定処理に戻ります。詳細な動作は前ページをご参照下さい。

設定可能な桁数を超えた場合や設定範囲外の値を読ませて終了した場合、ブザーが『ピー』と鳴り、入力内容がクリアされます。この場合は1桁目から読み直して下さい。また入力中の値が無い状態で終了した場合、設定変更をせずに終了します。

数値入力の動作の流れを以下に記します。

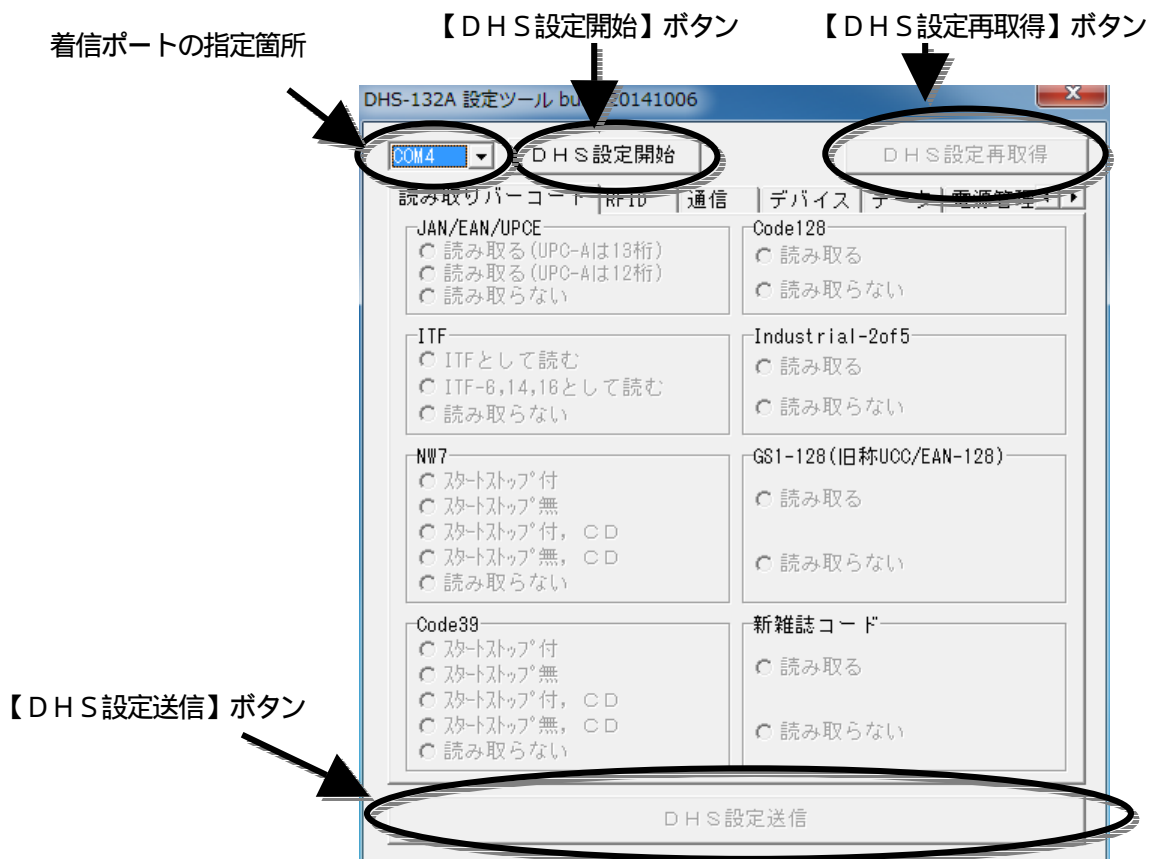


設定バーコードは、「[12-5. 設定バーコード](#)」を参照。

6-2. 設定ツールで設定

1. パソコンに Bluetooth 着信ポートを作成します。
(作成は、ご使用のアダプタの取扱説明書等を参照して行って下さい。)
2. 設定ツールの通信ポートに、1. で作成した着信ポートを指定します。(下図の場合、COM4)
3. DHS-132A/DHS-132AP とパソコンを Bluetooth 接続します。
4. 【DHS設定開始】ボタンを押すと現在の設定を読み込み、DHS-132A/DHS-132AP が設定できる状態になります。
5. 各設定を行います。
DHS-132A/DHS-132AP の設定を再取得したい場合は【DHS設定再取得】ボタンを押して下さい。
6. 設定を終える場合は、【DHS設定送信】ボタンを押します。
DHS-132A/DHS-132AP は、設定を受信するとブザーが『ピロ』と鳴ります。
その後ブザーが『ピー』と鳴り電源オフします。もし鳴らない場合は、キーを長押しして電源オフして下さい。

以上で設定完了です。



設定ツールは、改良のため予告なく変更する場合があります。

6-3. アプリケーションからの一括設定

1. DHS-132A/DHS-132AP と機器を Bluetooth 接続します。
2. 以下の手順で通信を行います。一括設定は、接続直後のみしかできません。

機器	方向	DHS-132A/DHS-132AP
02h, "_SETTING", 03h ¹	➡	
	←	05h
00h	➡	
	←	06h
設定データ ² (64byte)	➡	
	←	設定完了 : 06h 設定失敗 : 15h 送信後、約 1 秒後に ブザーが『ピーピーピー』となり 電源オフ

1 データ詳細

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
02h	'_' (5Fh)	'S' (53h)	'E' (45h)	'T' (54h)	'T' (54h)	'I' (49h)	'N' (4Eh)	'G' (47h)	03h

- 2 設定データの詳細は「[1 2 - 4 . 設定データ](#)」を参照。

7. 設定内容

設定内容の詳細を説明します。

(印 : 工場出荷設定)

読み取りバーコード (照合元バーコード、照合対象バーコード)

読み取るバーコードの設定を行います。

スキャナモード、照合モードの照合元、照合対象それぞれ読み取るバーコードを個別に指定できます。

「読み取りバーコード」はスキャナモードで使用する読み取り設定です。

「照合元バーコード」および「照合対象バーコード」は照合モードで使用する読み取り設定です。

JAN と新雑誌コードを同時読取指定した場合は、新雑誌コードが優先されます。

JAN/EAN/UPCE

読み取る (UPC-A は 13 桁)

JAN/EAN/UPC-A/UPC-E の読み取りをします。

UPC-A を読み取るとデータ先頭に 0 を付加し、13 桁のバーコードデータとして出力します。

読み取る (UPC-A は 12 桁)

JAN/EAN/UPC-A/UPC-E の読み取りをします。

UPC-A を読み取るとデータ先頭に 0 を付加せず、12 桁のバーコードデータとして出力します。

読み取らない

JAN/EAN/UPC-A/UPC-E の読み取りをしません。

ITF

ITF として読む

Interleaved-2of5 として読み取ります。

ITF-6, 14, 16 として読む

ITF-6, 14, 16 として読み取ります。

この時チェックディジットのチェックを行い、エラーであれば読み取りません。

読み取らない

ITF の読み取りをしません。

NW7

スタートストップ 付

NW7 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きません。

スタートストップ 無

NW7 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きます。

スタートストップ 付, CD

NW7 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きません。

この時チェックディジットのチェックを行い、エラーであれば読み取りません。

(モジュラス 16 でチェック)

スタートストップ 無, CD

NW7 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きます。

この時チェックディジットのチェックを行い、エラーであれば読み取りません。

(モジュラス 16 でチェック)

読み取らない

NW7 の読み取りをしません。

Code39

スタートストップ 付

Code39 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きません。

スタートストップ 無

Code39 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きます。

スタートストップ 付, C D

Code39 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きません。

この時チェックディジットのチェックを行い、エラーであれば読み取りません。

(モジュラス 43 でチェック)

スタートストップ 無, C D

Code39 を読み取った後、バーコードデータからスタートストップキャラクタを取り除きます。

この時チェックディジットのチェックを行い、エラーであれば読み取りません。

(モジュラス 43 でチェック)

読み取らない

Code39 の読み取りをしません。

Code128

読み取る

Code128 の読み取りをします。

読み取らない

Code128 の読み取りをしません。

Industrial-2of5

読み取る

Industrial-2of5 の読み取りをします。

読み取らない

Industrial-2of5 の読み取りをしません。

GS1-128(旧称 UCC/EAN-128)

読み取る

GS1-128 の読み取りをします。

読み取らない

GS1-128 の読み取りをしません。

新雑誌コード

読み取る

新雑誌コードの読み取りをします。

読み取らない

新雑誌コードの読み取りをしません。

RFID

読み取る RF タグの設定を行います。

ISO15693

UID 読み取る

ISO15693 準拠の RF タグの UID のみの読み取りをします。

書き込みを行う場合は、【データ位置】と【データ長】も併せて指定して下さい。

データ 読み取る

ISO15693 準拠の RF タグのデータのみを読み取ります。

【データ位置】と【データ長】も併せて指定して下さい。

UID + データ 読み取る

ISO15693 準拠の RF タグの UID とデータの読み取りをします。

UID とデータの区切りは、【データ項目】 - 【区切り】で指定したキャラクタになります。

【データ位置】と【データ長】も併せて指定して下さい。

読み取らない

ISO15693 準拠の RF タグの読み取りをしません。

(例) UID 『E000000000000000』、データ 『ABCD』

【データ】 - 【終端付加】 - 【CR】

【データ項目】 - 【区切り】 - 【カンマ】の場合の

送信データは次のようになります。

『UID 読み取る』場合

ASCII: E 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 <CR>

HEX :45h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 0Dh

『データ 読み取る』場合

ASCII: A B C D <CR>

HEX :41h 42h 43h 44h 0Dh

『UID + データ 読み取る』場合

ASCII: E 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ,

A B C D <CR>

HEX :45h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 30h 2Ch

41h 42h 43h 44h 0Dh

FeliCa

IDm 読み取る

FeliCa の IDm の読み取りをします。

読み取らない

FeliCa の読み取りをしません。

データ位置(ISO15693 の設定)

0 ~ 2047(0)

RF タグのデータを読み書きする先頭の位置を指定します。

正しい設定を行っていない場合は、読み書き動作を行いません。

[設定範囲]

I-CODE SLI/SLIX	: 0 ~ 111	my-d SRF55V02P	: 0 ~ 223
Tag-It HF-I Plus	: 0 ~ 255	my-d SRF55V10P	: 0 ~ 991
Tag-It HF-I Pro	: 0 ~ 31	Fujitsu MB89R118	: 0 ~ 1999
Tag-It HF-I Standard	: 0 ~ 31	Fujitsu MB89R119	: 0 ~ 255

Fujitsu タグは DHS-132A のみ対応

データ長(ISO15693 の設定)

1 ~ 2048(1)

RF タグのデータを読み書きするバイト数を指定します。

正しい設定を行っていない場合は、読み書き動作を行いません。

[設定範囲]

I-CODE SLI/SLIX	: 1 ~ 112	my-d SRF55V02P	: 1 ~ 224
Tag-It HF-I Plus	: 1 ~ 256	my-d SRF55V10P	: 1 ~ 992
Tag-It HF-I Pro	: 1 ~ 32	Fujitsu MB89R118	: 1 ~ 2000
Tag-It HF-I Standard	: 1 ~ 32	Fujitsu MB89R119	: 1 ~ 256

Fujitsu タグは DHS-132A のみ対応

データ形式(ISO15693 の設定)

固定長

読み取った RF タグのデータをそのまま送信します。

可変長

読み取った RF タグのデータの 00h の手前までを送信します。

設定前に「[9 . RF タグデータの読み取り](#)」、「[10 . RF タグデータの書き込み](#)」を一読下さい。

通信

接続モード

マスタ

DHS-132A から接続を行うマスタの設定にします。

スレーブ

DHS-132A は接続を待ち受けるスレーブの設定にします。

スレーブに設定すると通信方式が「SPP 通信」に変更されます。

接続しない

Bluetooth 接続を行わない動作になります。

通信方式

HID 通信

Bluetooth プロファイルの HID の機器と接続する場合に設定します。

HID 通信に設定すると、接続モードが「マスタ」に変更されます。

SPP 通信

Bluetooth プロファイルの SPP の機器と接続する場合に設定します。

応答確認 (通信方式が SPP のみ)

無し

読み取ったデータを相手機器に送信する場合、相手機器の受け取り応答は無いものとして送信のみ行います。

ACK

読み取ったデータを相手機器に送信後、相手機器の受け取り応答を待ちます。

受け取り応答は正常時 ACK(06h)、異常時 NAK(15h)とし NAK(15h)受信時は3回まで再送します。

3回目の再送で NAK(15h)を受け取るとエラーとします。

3秒以上応答が無い場合は再送します。

RF タグデータ再送の場合は、RF タグを再度読み取って送信する動作となりますので、DHS-132A/DHS-132AP を RF タグから離さないで下さい。

読み取れなかった場合はエラーとなり、再送処理を中止します。

ホスト制御 (通信方式が SPP のみ)

無し

ホスト制御を受け付けません。

有り

ホスト制御を受け付けます (「[12 - 6 . ホスト制御](#)」を参照)。

HID キー変換 (通信方式が HID のみ)

英語キーボード

相手機器のキーボードが英語キーボードの場合に設定して下さい。

日本語キーボード

相手機器のキーボードが日本語キーボードの場合に設定して下さい。

HID 文字間タイムアウト (通信方式が HID のみ)

データを送る際、文字を送ってから次の文字を送るまでに一定時間待つことで、接続機器が確実に受信できるようにします。

0

待ち時間を挟まず、すぐ次の文字を送信します。

1~50

次の文字を送るまで一定時間待ちます。待ち時間は 10ms 単位で指定します。

(例) 1 10ms

50 500ms

デバイス

2度読み防止

無し

同じバーコード、RF タグの2度読みを制限しません。

有り

同じバーコード、RF タグの読みを5秒間受け付け無いことで2度読みを防止します。

ブザー音

バーコードおよびRF タグ読み取り時、ブザーで知らせます。

パターン

バーコードおよびRF タグを読み取ると、1回ブザーが鳴ります。

パターン

バーコードを読み取ると1回、RF タグを読み取ると2回ブザーが鳴ります。

パターン

バーコードを読み取ると2回、RF タグを読み取ると1回ブザーが鳴ります。

無し

バーコードおよびRF タグ読み取り時、ブザーで知らせません。

バイブレータ

バーコードおよびRF タグ読み取り時、バイブレータで知らせます。

パターン

バーコードおよびRF タグを読み取ると、1回バイブレータが動作します。

パターン

バーコードを読み取ると1回、RF タグを読み取ると2回バイブレータが動作します。

パターン

バーコードを読み取ると2回、RF タグを読み取ると1回バイブレータが動作します。

無し

バーコードおよびRF タグ読み取り時、ブザーで知らせません。

動作モード

スキャナモード

スキャナモードとして動作します。

1対1照合モード

1対1照合モードとして動作します。

1対N照合モード

1対N照合モードとして動作します。

連続スキャン

する

キーを押すと読み取り動作を連続的に行います。再度同じキーが押されるまで次々と読み取りを行います。再度キーを押すか一定時間経過（タイムアウト）すると読み取り動作を中断します。

しない

連続スキャンを行いません。

	連続スキャンしない	連続スキャンする
キーで中断	無し	有り
最大照射時間（タイムアウト）	3秒	10秒
読み取り成功後	読み取りを終了	次の読み取りを開始

データ

先頭付加

無し

読み取ったデータの先頭には何も付加しません。

Symbol 準拠

読み取ったデータの先頭に以下の識別文字を付加して送信します。

読み取りコード	先頭付加文字
UPC-A/UPC-E/JAN8/JAN13	A
Code39	B
NW7	C
Code128	D
Interleaved-2of5	F
Industrial-2of5	G
EAN128	K
新雑誌コード	A
ITF-6/ITF-14/ITF-16	F
ISO15693	Y
FeliCa	Z

AIM 準拠

読み取ったデータの先頭に以下の識別文字を付加して送信します。(2~3文字)

読み取りコード	先頭付加文字
Code39]A4
Code128]C0
EAN128]C1
UPC-A/JAN13]E0
新雑誌コード]E0,]E2
JAN8/UPC-E]E4
NW7]F0
Interleaved-2of5]I0
Industrial-2of5]S0
ITF-6/ITF-14/ITF-16]I0
ISO15693]Z2
FeliCa]Z3

]E0 の後に 13 桁、]E2 の後に残り 5 桁となります。

終端付加

無し

読み取ったデータの最後には何も付加しません。

CR

読み取ったデータの最後に CR(0Dh)を付加して送信します。

LF

読み取ったデータの最後に LF(0Ah)を付加して送信します。

TAB

読み取ったデータの最後に TAB(09h)を付加して送信します。

ETX(STX)

読み取ったデータの先頭に STX(02h)、最後に ETX(03h)を付加して送信します。
(先頭付加文字を指定した場合には先頭付加文字の前に STX(02h)を付加します)

(例) データが『1234』の場合、送信データは次のようになります。

『無し』場合

ASCII: 1 2 3 4

HEX: :31h 32h 33h 34h

『CR』場合

ASCII: 1 2 3 4 <CR>

HEX: :31h 32h 33h 34h 0Dh

『LF』場合

ASCII: 1 2 3 4 <LF>

HEX: :31h 32h 33h 34h 0Ah

『TAB』場合

ASCII: 1 2 3 4 <TAB>

HEX: :31h 32h 33h 34h 09h

『ETX(STX)』場合

ASCII:<STX> 1 2 3 4 <ETX>

HEX: : 02h 31h 32h 33h 34h 03h

電源管理

自動オフ

0 (自動オフしない)

自動的に電源オフしません。

1~99分 (5分)

何も操作しない状態が設定時間経過すると自動的に相手機器との通信を切断して電源オフします。

データ項目

区切り

CR

機器 ID とデータを CR(0Dh) で区切ります。

LF

機器 ID とデータを LF(0Ah) で区切ります。

TAB

機器 ID とデータを TAB(09h) で区切ります。

カンマ

機器 ID とデータをカンマ(2Ch) で区切ります。

機器 ID 付加

しない

データに機器 ID を付加しません。

する

データに機器 ID を付加して送信します。

機器 ID とデータの間には、【区切り】で指定したキャラクタが入ります。

(例) 機器 ID 『123456』、データ 『ABCD』

【データ】 - 【終端付加】 - 【CR】

【データ項目】 - 【区切り】 - 【カンマ】の場合の送信データは次のようになります。

ASCII: 1 2 3 4 5 6 , A B C D <CR>

HEX :31h 32h 33h 34h 35h 36h 2Ch 41h 42h 43h 44h 0Dh

キー操作

起動時 左キー

バーコード読み取り

起動時、左キーを短く押すと、バーコードを読み取ります。

長押しすると Bluetooth 接続 / 接続待ちを行います。

Bluetooth 接続

起動時、左キーを短く押すと、Bluetooth 接続 / 接続待ちを行います。

長押しするとペアリングモードに移行します。

起動時 右キー

バーコード読み取り

起動時、右キーを短く押すと、バーコードを読み取ります。

長押しすると Bluetooth 接続 / 接続待ちを行います。

Bluetooth 接続

起動時、右キーを短く押すと、Bluetooth 接続 / 接続待ちを行います。

長押しするとペアリングモードに移行します。

起動時 左キー、右キーをどちらとも「Bluetooth 接続」に設定すると、以後はバーコードによる設定はできませんのでご注意ください。再度設定を行うには、

- ・通信方式が SPP 通信の場合は、設定ツールを使用して設定することができます。
- ・通信方式が HID 通信の場合は、一度設定を初期化する必要があります。

初期化の方法については、「[8. 設定初期化](#)」をご参照下さい。

Bluetooth 接続中 左キー

バーコード読み取り

Bluetooth 接続中、左キーを短く押すと、バーコードを読み取ります。

RF タグ読み取り

Bluetooth 接続中、左キーを短く押すと、RF タグを読み取ります。

Bluetooth 接続中 右キー

バーコード読み取り

Bluetooth 接続中、右キーを短く押すと、バーコードを読み取ります。

RF タグ読み取り

Bluetooth 接続中、右キーを短く押すと、RF タグを読み取ります。

長押し時間 [前回の接続先に接続]

起動時「バーコード読み取り」に設定したキーを長押ししたときの、接続動作に移行するまでの時間を指定します。

2 ~ 10 秒 (3 秒)

長押し時間 [ペ어링モードに移行]

起動時「Bluetooth 接続」に設定したキーを長押ししたときの、ペ어링モードに移行するまでの時間を指定します。

2 ~ 10 秒 (5 秒)

長押し時間 [ソフトキーON]

iOS 機器との接続時に、長押ししてソフトキーボードを ON するまでの時間を指定します。

1 ~ 9 秒 (3 秒)

長押し時間[電源オフ]より短くしないと機能しませんのでご注意ください。

長押し時間 [電源オフ]

キーを長押しして電源オフするまでの時間を指定します。

2 ~ 10 秒 (7 秒)

照合動作

照合方法

単純照合

照合元バーコードと、照合対象バーコードをそのまま照合します。

部分照合

照合元バーコードの一部分と、照合対象バーコードの一部分を照合します。

照合元バーコードの「照合元開始桁」から「照合桁数」

照合対象バーコードの「照合対象開始桁」から「照合桁数」

を照合します。

NG時 次読み取り（1対N照合モードのみ）

照合対象

照合結果NG時、キーを押した後、照合対象の読み取りを行います。

照合元

照合結果NG時、キーを押した後、照合元の読み取りを行います。

照合元開始桁

照合方法「部分照合」設定の、照合元バーコードの照合開始桁位置を指定します。

1～99（1桁目）

照合対象開始桁

照合方法「部分照合」設定の、照合対象バーコードの照合開始桁位置を指定します。

1～99（1桁目）

照合桁数

照合方法「部分照合」設定の、照合桁数を指定します。

1～99（1桁）

8. 設定初期化

設定初期化を行うと、すべての設定がクリアされ工場出荷時の設定に戻ります。
以下の手順で行ってください。

左右どちらかのキーを30秒間押し続けてください。

押し始めて20秒経つとLEDが赤緑交互に点滅し、ブザーが「ピーー」と鳴ります。

さらに10秒経つとLEDが消え、「ピッ」と鳴りますので、一旦キーを離してから5秒以内に3回押しして下さい。ブザーが「ピロリ」と鳴り、初期化が始まります。

初期化が完了すると、LEDが赤に点灯してブザーが「ピー」と鳴った後、自動的に電源オフします。

9. RF タグデータの読み取り (ISO15693 準拠のRF タグ)

RF タグのデータは、データ形式の設定により読み取る内容が変わります。

データ形式：【固定長】に設定した場合 (工場出荷設定)

データ部分は、設定した【データ位置】から【データ長】の範囲を必ず取り出します。

データ形式：【可変長】に設定した場合

データ部分は、設定した【データ位置】から【データ長】までの範囲を調べ 00h の手前までを取り出します。

設定した【データ位置】のデータが 00h の場合は、読み取りエラーとなります。

もし、読み取り失敗した場合、原因として以下が考えられます。

- ・ DHS-132A/DHS-132AP と RF タグの距離又は、位置が適切でない
 本体裏面の IC マークの位置を確認し、RF タグが良く読める位置に移動させてみて下さい。
- ・ RF タグ読み取り中に DHS-132A/DHS-132AP を RF タグから離れた
 橙 LED が点滅している間は RF タグ読み取り中ですので、読み取りが終わるまで離さないで下さい。
 読み取るデータ長が長い場合や RF タグの種類によっては読み取りに時間がかかる場合があります。

(例) RF タグのデータが次の場合 (RF タグデータサイズ 19 バイト)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
D	I	G	I	T	A	L	00h	T	E	C	H	N	O	L	O	G	Y	00h

1. データ形式：固定長、データ位置：0、データ長：8 の設定で読めるデータは？

0	1	2	3	4	5	6	7
D	I	G	I	T	A	L	00h

(8 バイト) 固定長の場合は、指定したデータ長のデータとなります。

2. データ形式：固定長、データ位置：8、データ長：11 の設定で読めるデータは？

8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
T	E	C	H	N	O	L	O	G	Y	00h

(11 バイト) 固定長の場合は、指定したデータ長のデータとなります。

3. データ形式：可変長、データ位置：0、データ長：8 の設定で読めるデータは？

0	1	2	3	4	5	6
D	I	G	I	T	A	L

(7 バイト) 可変長の場合は、00h 手前までのデータとなります。

4. データ形式：可変長、データ位置：8、データ長：11 の設定で読めるデータは？

8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
T	E	C	H	N	O	L	O	G	Y

(10 バイト) 可変長の場合は、00h 手前までのデータとなります。

10. RF タグデータの書き込み (ISO15693 準拠のRF タグ)

RF タグヘデータを書き込むには、接続機器から DHS-132A/DHS-132AP へ以下のデータを送信して下さい。

DC1(11h)	データ	DC2(12h)
----------	-----	----------

DHS-132A/DHS-132AP はデータを受信すると、設定した【データ位置】へデータを書き込みます。

設定した【データ長】よりも大きいサイズのデータを受信した場合は、書き込みは行いません。

書き込み成功すると ACK(06h)、失敗すると NAK(15h) が DHS-132A/DHS-132AP から送信されます。

一度に書き込みできるデータは 256 バイトまでとなります。256 バイトを超える場合は複数回に分けて書き込みを行って下さい。

データ形式が【可変長】設定の場合、書き込みデータの最後に 00h を書き込みます。書き込みデータのサイズが【データ長】と等しい場合は、00h の書き込みは行いません。

もし、書き込み失敗した場合、原因として以下が考えられます。

- ・ DHS-132A/DHS-132AP と RF タグの距離又は、位置が適切でない
 本体裏面の IC マークの位置を確認し、RF タグがよく読める位置に移動させてみて下さい
- ・ 【データ長】よりも大きいサイズのデータを受信した
 書き込みデータのサイズが【データ長】を超えていないか確認して下さい

書き込むデータに DLE(10h), DC1(11h), DC2(12h) が含まれる場合は、以下のように DLE をつけて 2 バイトのデータにして送信して下さい。

DLE(10h) ... DLE(10h), DLE(10h)

DC1(11h) ... DLE(10h), DC1(11h)

DC2(12h) ... DLE(10h), DC2(12h)

(例)

1. データ形式：固定長、データ位置：0、データ長：8 の設定で次のデータを受信。

DC1	D	I	G	I	DC2
11h	44h	49h	47h	49h	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
D	I	G	I	変更無し														

このまま読み取ると、

0	1	2	3	4	5	6	7
D	I	G	I	元のデータ			

(8 バイト)

2. データ形式：固定長、データ位置：8、データ長：11 の設定で次のデータを受信。

DC1	T	E	C	H	N	O	DC2
11h	54h	45h	43h	48h	4Eh	4Fh	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
変更無し								T	E	C	H	N	O	変更無し				

このまま読み取ると、

8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
T	E	C	H	N	O	元のデータ				

(11 バイト)

3. データ形式：可変長、データ位置：0、データ長：4 の設定で次のデータを受信（データ長 = 受信サイズ）。

DC1	D	I	G	I	DC2
11h	44h	49h	47h	49h	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
D	I	G	I	変更無し														

このまま読み取ると、

0	1	2	3
D	I	G	I

(4 バイト)

4. データ形式：可変長、データ位置：8、データ長：6 の設定で次のデータを受信（データ長 = 受信サイズ）。

DC1	T	E	C	H	N	O	DC2
11h	54h	45h	43h	48h	4Eh	4Fh	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
変更無し								T	E	C	H	N	O	変更無し				

このまま読み取ると、

1	2	3	4	5	6
T	E	C	H	N	O

(6 バイト)

5. データ形式：可変長、データ位置：0、データ長：8 の設定で次のデータを受信（データ長 > 受信サイズ）。

DC1	D	I	G	I	DC2
11h	44h	49h	47h	49h	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
D	I	G	I	00h	変更無し													

データ長より少ないデータだと、最後に 00h を付加して書き込みます。

このまま読み取ると、

0	1	2	3
D	I	G	I

(4 バイト)

6. データ形式：可変長、データ位置：8、データ長：11 の設定で次のデータを受信（データ長 > 受信サイズ）。

DC1	T	E	C	H	N	O	DC2
11h	54h	45h	43h	48h	4Eh	4Fh	12h

書き込み結果は、

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
変更無し								T	E	C	H	N	O	00h	変更無し			

データ長より少ないデータだと、最後に 00h を付加して書き込みます。

このまま読み取ると、

1	2	3	4	5	6
T	E	C	H	N	O

(6 バイト)

11. 状態早見表

LEDの状態より DHS-132A/DHS-132AP の動作がわかります。

LED	動作
消灯	電源オフの状態です
青点滅(速い: 100/ 200ms)	Bluetooth 接続試行中 タイムアウト マスタ: 3秒~10秒 スレーブ: 60秒
青点滅(遅い: 100/1000ms)	Bluetooth 接続中 (データの送信ができます)
橙点滅(速い: 100/ 200ms)	<ul style="list-style-type: none"> RF タグ検索中 RF タグ読み取り中
緑点灯(1秒)	<ul style="list-style-type: none"> 読み取り成功 照合OK
赤点滅(遅い: 100/1000ms)	電池残量 警告 (電池交換をおすすめします) 状態: Bluetooth 接続中 (データの送信がまだできます)
赤点滅(速い: 100/ 200ms)	電池残量 無し (電池交換をして下さい) 状態: Bluetooth 切断
赤点灯(電源オフするまで)	<ul style="list-style-type: none"> 電源オフします Bluetooth の接続が途切れたので、電源オフします
赤点灯(1秒)	<ul style="list-style-type: none"> 応答エラー (応答設定をした場合) 設定時の数値入力エラー
赤緑交互点滅(速い: 100ms)	<ul style="list-style-type: none"> 照合対象バーコード読み取り (照射オフ時) 設定初期化の操作の途中 10秒間
赤緑交互点滅(遅い: 500ms)	Bluetooth アドレスバーコード読み取り中(1桁ずつ)
赤点灯	バーコード設定モード
青点滅(900/1000ms)	ペアリングモード 120秒

ブザー音より状態変化がわかります。

ブザー	動作モード
ピロ 又は ピロピロ	<ul style="list-style-type: none"> 読み取り成功 (照合元バーコード以外) 照合OK
ピッ	<ul style="list-style-type: none"> 照合元バーコード読み取り成功 設定初期化の操作時、30秒経過
ピーピーピー	電源オフします
ピー	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth の接続が途切れたので、電源オフします 応答エラー (応答設定をした場合)
ピロリ	Bluetooth 接続完了
ピーピピ	バーコード設定モードで設定完了

12. 付録

12-1. ペアリングバーコード

ペアリングバーコードは、Code39 で、以下のバーコードをご使用下さい。



12-2. アドレスバーコード

アドレスバーコードは、Code39 または、Code128 で以下のように作成して下さい。

接続先アドレスが『0123456789AB』の場合

Code39(14桁)



Code128(12桁)



12-3. アドレスバーコード(1桁入力用)

アドレスバーコードの入力は、以下をご使用下さい。

入力を間違えた場合、『BS』のバーコードを読み取ると、直前の入力をクリアします。



設定開始



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



A



B



C



D



E



F



BS

アドレスバーコード詳細 種類 : Code128

0	『0』(1桁)	8	『8』(1桁)
1	『1』(1桁)	9	『9』(1桁)
2	『2』(1桁)	A	『A』(1桁)
3	『3』(1桁)	B	『B』(1桁)
4	『4』(1桁)	C	『C』(1桁)
5	『5』(1桁)	D	『D』(1桁)
6	『6』(1桁)	E	『E』(1桁)
7	『7』(1桁)	F	『F』(1桁)
		BS	『BS』(1桁)

12-4. 設定データ

アプリケーションからの一括設定する場合のデータの詳細でデータ長は64byteになります。

工場出荷状態の設定の場合は、FFhを指定して下さい。

詳しくは、「[6-3. アプリケーションからの一括設定](#)」を参照して下さい。

位置	内容	設定値	
0	【読み取りバーコード】 - 【JAN/EAN/UPCE】	00h	読み取らない
		01h	読み取る(UPC-Aは12桁)
		以外	読み取る(UPC-Aは13桁)
1	【読み取りバーコード】 - 【ITF】	00h, FFh	読み取らない
		01h	ITF-6, 14, 16として読む
		以外	ITFとして読む
2	【読み取りバーコード】 - 【NW7】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、CD
		02h	スタートストップ付、CD
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付
3	【読み取りバーコード】 - 【Code39】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、CD
		02h	スタートストップ付、CD
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付
4	【読み取りバーコード】 - 【Code128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
5	【読み取りバーコード】 - 【Industrial 2of5】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
6	【読み取りバーコード】 - 【GS1-128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
7	【読み取りバーコード】 - 【新雑誌コード】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
8	【RFID】 - 【ISO15693】	00h, FFh	UID 読み取る
		01h	データ 読み取る
		02h	UID + データ 読み取る
		以外	読み取らない
9	【RFID】 - 【FeliCa】	00h, FFh	IDm 読み取る
		以外	読み取らない
10-11	【RFID】 - 【データ位置】(0~2047) ISO15693 設定	FFFFh	0
		以外	データ位置
12-13	【RFID】 - 【データ長】 (1~2048バイト) ISO15693 設定	0000h	1バイト
		FFFFh	1バイト
		以外	データ長
14	【RFID】 - 【データ形式】 ISO15693 設定	00h, FFh	固定長
		以外	可変長

位置	内容	設定値	
15	【通信】 - 【接続モード】	00h, FFh	接続しない
		01h	マスタ
		以外	スレーブ
16	【通信】 - 【通信方式】	02h, FFh	HID 通信
		01h	SPP 通信
17	予約	必ず FFh	
18	【通信】 - 【応答確認】	00h, FFh	無し
		以外	ACK
19	【通信】 - 【ホスト制御】	00h, FFh	無し
		以外	有り
20	【デバイス】 - 【2度読み防止】	00h, FFh	無し
		以外	有り
21	予約	必ず FFh	
22	【デバイス】 - 【ブザー音】	00h	無し
		01h, FFh	パターン [バーコード1回、RFID1回]
		02h	パターン [バーコード1回、RFID2回]
		03h	パターン [バーコード2回、RFID1回]
23	【デバイス】 - 【パイプレータ】	00h	無し
		01h, FFh	パターン [バーコード1回、RFID1回]
		02h	パターン [バーコード1回、RFID2回]
		03h	パターン [バーコード2回、RFID1回]
24	【データ】 - 【先頭付加】	00h, FFh	無し
		01h	Symbol 準拠
		02h	AIM 準拠
25	【データ】 - 【終端付加】	00h, FFh	無し
		01h	CR
		02h	TAB
		03h	ETX(STX)
		04h	LF
26	【電源管理】 - 【自動オフ時間】	00h	自動オフしない
		FFh	5分
		以外	設定時間(分)で自動オフ
27	【キー操作】 - 【起動時】 - 【左キー】	00h	バーコード読み取り
		01h, FFh	Bluetooth 接続
28	【キー操作】 - 【Bluetooth 接続中】 - 【左キー】	00h	バーコード読み取り
		01h, FFh	RF タグ読み取り
29	【データ項目】 - 【区切り】	00h, FFh	CR
		01h	TAB
		02h	カンマ
		以外	LF
30	【データ項目】 - 【機器 ID 付加】	00h, FFh	しない
		以外	する

位置	内容	設定値	
31	【デバイス】 - 【動作モード】	00h, FFh	スキャナモード
		01h	1対1照合モード
		以外	1対N照合モード
32	【デバイス】 - 【連続スキャン】	00h, FFh	しない
		以外	する
33	【通信】 - 【HIDキー変換】	00h, FFh	英語キーボード
		以外	日本語キーボード
34	【照合元バーコード】 - 【JAN/EAN/UPCE】	00h	読み取らない
		以外	読み取る
35	【照合元バーコード】 - 【ITF】	00h, FFh	読み取らない
		01h	ITF-6, 14, 16として読む
		以外	ITFとして読む
36	【照合元バーコード】 - 【NW7】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、C D
		02h	スタートストップ付、C D
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付
37	【照合元バーコード】 - 【Code39】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、C D
		02h	スタートストップ付、C D
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付
38	【照合元バーコード】 - 【Code128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
39	【照合元バーコード】 - 【Industrial 2of5】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
40	【照合元バーコード】 - 【GS1-128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
41	【照合元バーコード】 - 【新雑誌コード】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
42	【照合対象バーコード】 - 【JAN/EAN/UPCE】	00h	読み取らない
		以外	読み取る
43	【照合対象バーコード】 - 【ITF】	00h, FFh	読み取らない
		01h	ITF-6, 14, 16として読む
		以外	ITFとして読む
44	【照合対象バーコード】 - 【NW7】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、C D
		02h	スタートストップ付、C D
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付

位置	内容	設定値	
45	【照合対象バーコード】 - 【Code39】	00h, FFh	読み取らない
		01h	スタートストップ無、C D
		02h	スタートストップ付、C D
		03h	スタートストップ無
		以外	スタートストップ付
46	【照合対象バーコード】 - 【Code128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
47	【照合対象バーコード】 - 【Industrial 2of5】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
48	【照合対象バーコード】 - 【GS1-128】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
49	【照合対象バーコード】 - 【新雑誌コード】	00h, FFh	読み取らない
		以外	読み取る
50	【照合動作】 - 【照合方法】	00h, FFh	単純照合
		以外	部分照合
51	【照合動作】 - 【照合元開始桁】	01h, FFh	1 桁目
		以外	1～99 で指定
52	【照合動作】 - 【照合対象開始桁】	01h, FFh	1 桁目
		以外	1～99 で指定
53	【照合動作】 - 【照合桁数】	01h, FFh	1 桁目
		以外	1～99 で指定
54	【照合動作】 - 【NG 時 次読み取り】	00h, FFh	照合対象
		以外	照合元
55	【通信】 - 【HID 文字間タイムアウト】	00h, FFh	0ms
		以外	1～50 で指定 ¹
56	【キー操作】 - 【起動時】 - 【右キー】	00h, FFh	バーコード読み取り
		01h	Bluetooth 接続
57	【キー操作】 - 【Bluetooth 接続中】 - 【右キー】	00h, FFh	バーコード読み取り
		01h	RF タグ読み取り
58	【長押し時間】 - 【前回の接続先に接続】	03h, FFh	3 秒
		以外	2～10 秒で指定
59	【長押し時間】 - 【ペアリングモードに移行】	05h, FFh	5 秒
		以外	2～10 秒で指定
60	【長押し時間】 - 【ソフトキーON】	03h, FFh	3 秒
		以外	1～9 秒で指定
61	【長押し時間】 - 【電源オフ】	07h, FFh	7 秒
		以外	2～10 秒で指定
62-63	予約	必ず FFh	

- 1 HID 文字間タイムアウトは 10ms 単位で指定します。
たとえば 10 を指定した場合、実際のタイムアウト時間は 100ms となります。



12-5. 設定バーコード














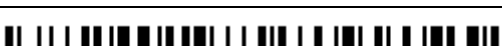


設定は、『設定開始』バーコードを読み取ってから行います。


『設定終了』バーコードを読み取ると設定終了します。

詳しくは、「[6-1. バーコードを読み取って設定](#)」を参照して下さい。



印刷の際は、印字品質を高くして下さい。

【設定開始】	【設定終了】
	

読み取りバーコード		
JAN/EAN/UPCE	読み取る (UPC-A は 13 桁)	
	読み取る (UPC-A は 12 桁)	
	読み取らない	
ITF	ITF として読む	
	ITF-6, 14, 16 として読む	
	読み取らない	
NW7	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	
Code39	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	

【設定開始】 	【設定終了】 
--	---

読み取りバーコード		
Code128	読み取る	
	読み取らない	
Industrial 2of5	読み取る	
	読み取らない	
GS1-128	読み取る	
	読み取らない	
新雑誌コード	読み取る	
	読み取らない	

RFID		
ISO15693	UID 読み取る	
	データ 読み取る	
	UID + データ 読み取る	
	読み取らない	
FeliCa	IDm 読み取る	
	読み取らない	
データ形式	固定長	
	可変長	

データ位置、データ長の設定バーコードは、P.56 にあります。

【設定開始】 	【設定終了】
-------------------	-------------------

通信		
接続モード	マスタ	
	スレーブ	
	デモ用途 (接続しない)	
通信方式 ¹	HID 通信	
	SPP 通信	
応答確認	無し	
	ACK	
ホスト制御	無し	
	有り	
HID キー変換	英語キーボード	
	日本語キーボード	

1 通信方式を切り替えた場合は、再度ペアリングし直して下さい。
 HID 文字間タイムアウトの設定バーコードは、P.56 にあります。

デバイス		
2度読み防止	無し	
	有り	
ブザー音	パターン [バーコード1回、RFID1回]	
	パターン [バーコード1回、RFID2回]	
	パターン [バーコード2回、RFID1回]	
	無し	

【設定開始】 	【設定終了】
-------------------	-------------------

デバイス		
パイプレータ	パターン [バーコード1回、RFID1回]	
	パターン [バーコード1回、RFID2回]	
	パターン [バーコード2回、RFID1回]	
	無し	
連続スキャン	しない	
	する	
動作モード	スキャナモード	
	1対1照合モード	
	1対N照合モード	

データ		
先頭付加	無し	
	Symbol 準拠	
	AIM 準拠	
終端付加	無し	
	CR	
	LF	
	TAB	
	ETX(STX)	



【設定開始】	【設定終了】








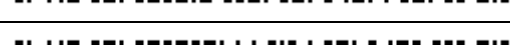
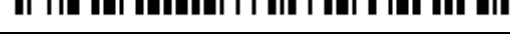










データ項目		
区切り設定	CR	
	LF	
	TAB	
	カンマ	
機器 ID 付加	しない	
	する	



キー操作			
起動時 ¹	左キー	バーコード読み取り	
		Bluetooth 接続	
	右キー	バーコード読み取り	
		Bluetooth 接続	
Bluetooth 接続中	左キー	バーコード読み取り	
		RF タグ読み取り	
	右キー	バーコード読み取り	
		RF タグ読み取り	





長押し時間の設定バーコードは、P.56 にあります。





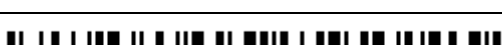

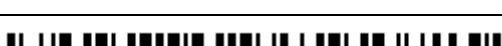
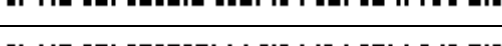
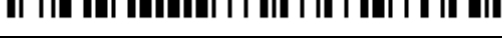






- 1 【キー操作】 - 【起動時】を左右どちらとも「Bluetooth 接続」に設定すると、
以後はバーコードによる設定はできませんのでご注意ください。
 再度設定を行うには、
- ・通信方式が SPP 通信の場合は、設定ツールを使用して設定することができます。
 - ・通信方式が HID 通信の場合は、一度設定を初期化する必要があります。
- 初期化の方法については、「[8 . 設定初期化](#)」をご参照下さい。



【設定開始】 	【設定終了】 
--	---

照合元バーコード		
【照合元】 JAN/EAN/UPCE	読み取る	
	読み取らない	
【照合元】 ITF	ITF として読む	
	ITF-6,14,16 として読む	
	読み取らない	
【照合元】 NW7	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	
【照合元】 Code39	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	
【照合元】 Code128	読み取る	
	読み取らない	
【照合元】 Industrial 2of5	読み取る	
	読み取らない	


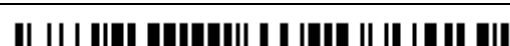

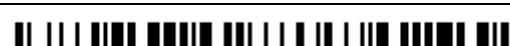
【設定開始】 	【設定終了】 
--	---

照合元バーコード		
【照合元】 GS1-128	読み取る	
	読み取らない	
【照合元】 新雑誌コード	読み取る	
	読み取らない	


照合対象バーコード		
【照合対象】 JAN/EAN/UPCE	読み取る	
	読み取らない	
【照合対象】 ITF	ITF として読む	
	ITF-6, 14, 16 として読む	
	読み取らない	
【照合対象】 NW7	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	
【照合対象】 Code39	スタートストップ付	
	スタートストップ無	
	スタートストップ付、CD	
	スタートストップ無、CD	
	読み取らない	

【設定開始】 	【設定終了】 
--	---



照合対象バーコード		
【照合対象】 Code128	読み取る	
	読み取らない	
【照合対象】 Industrial 2of5	読み取る	
	読み取らない	
【照合対象】 GS1-128	読み取る	
	読み取らない	
【照合対象】 新雑誌コード	読み取る	
	読み取らない	



照合動作		
照合方法	単純照合	
	部分照合	
NG時 次読み取り	照合対象	
	照合元	

照合元開始桁、照合対象開始桁、照合桁数の設定バーコードは、P.56 にあります。

メンテナンス	
工場出荷状態 ¹	

- ¹ 設定を初期化しますので、注意して下さい。
ブザーが『ピー』と鳴り、自動的に電源オフします。

【設定開始】 	【設定終了】 
--	---

数値入力	
データ位置 (ISO15693 設定) 入力開始	
データ長 (ISO15693 設定) 入力開始	
HID 文字間タイムアウト 入力開始	
自動オフ時間 入力開始	
長押し時間[前回の接続先に接続] 入力開始	
長押し時間[ペアリングモードに移行] 入力開始	
長押し時間[ソフトキーON] 入力開始	
長押し時間[電源オフ] 入力開始	
照合元開始桁 入力開始	
照合対象開始桁 入力開始	
照合桁数 入力開始	
<p>設定したい項目の入力開始 バーコードを読ませます。 右の数値バーコードを2桁 もしくは4桁読ませます。 数値入力終了バーコードを 読ませます。</p> <p>「自動オフしない」設定にする 場合は、0を指定して下さい。 【ISO15693 データ位置】 【ISO15693 データ長】は 4桁、それ以外は2桁で 入力して下さい。</p>	 0  1  2  3  4  5  6  7  8  9
数値入力終了	

1 2 - 6 . ホスト制御

ホスト制御を「有り」の設定にした場合、以下のデータを送信して DHS-132A/DHS-132AP を制御することができます。ただし、スキャン動作中は、ホスト制御を受け付けません。

データ	内容
02h, "BCR_SCAN", 03h	バーコード読み取り
02h, "RFIDSCAN", 03h	RF タグ読み取り
02h, "BUZOUT_0", 03h	ブザー 100ms オン (【デバイス】 - 【ブザー音】の設定は影響しません)
02h, "BUZOUT_1", 03h	ブザー 500ms オン (【デバイス】 - 【ブザー音】の設定は影響しません)
02h, "VIBOUT_0", 03h	バイブレータ 100ms オン (【デバイス】 - 【バイブレータ】の設定は影響しません)
02h, "VIBOUT_1", 03h	バイブレータ 500ms オン (【デバイス】 - 【バイブレータ】の設定は影響しません)
02h, "GET_BATT", 03h	電圧値取得 結果は読み取りデータと同じフォーマットで送ります。 (例)2.76V、【データ】 - 【終端付加】 - 【CR】の場合 "2.76", 0Dh
02h, "RFPOSxxx", 03h 4 桁以上指定する場合は 02h, "RFPOxxxx", 03h	ISO15693 準拠の RF タグの読み書きにおけるデータ位置を一時的に変更します。再接続時に、設定値は戻ります。 (例)データ位置を 64 にする場合、 "RFPOS064" として下さい。 データ位置を 1024 にする場合、 "RFPO1024" として下さい。
02h, "RFLENxxx", 03h 4 桁以上指定する場合は 02h, "RFLExxxx", 03h	ISO15693 準拠の RF タグの読み書きにおけるデータ長を一時的に変更します。再接続時に、設定値は戻ります。 (例)データ長を 16 にする場合、 "RFLEN016" として下さい。 データ長を 1024 にする場合、 "RFLE1024" として下さい。

ホスト制御データの詳細


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
02h	B (42h)	C (43h)	R (52h)	_ (5Fh)	S (53h)	C (43h)	A (41h)	N (4Eh)	03h
02h	R (52h)	F (46h)	I (49h)	D (44h)	S (53h)	C (43h)	A (41h)	N (4Eh)	03h
02h	B (42h)	U (55h)	Z (5Ah)	0 (4Fh)	U (55h)	T (54h)	_ (5Fh)	0 (30h)	03h
02h	B (42h)	U (55h)	Z (5Ah)	0 (4Fh)	U (55h)	T (54h)	_ (5Fh)	1 (31h)	03h
02h	V (56h)	I (49h)	B (42h)	0 (4Fh)	U (55h)	T (54h)	_ (5Fh)	0 (30h)	03h
02h	V (56h)	I (49h)	B (42h)	0 (4Fh)	U (55h)	T (54h)	_ (5Fh)	1 (31h)	03h

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
02h	G (47h)	E (45h)	T (54h)	- (5Fh)	B (42h)	A (41h)	T (54h)	T (54h)	03h
02h	R (52h)	F (46h)	P (50h)	0 (4Fh)	S (53h)	xxx (30h ~ 39h)			03h
02h	R (52h)	F (46h)	P (50h)	0 (4Fh)	xxxx (30h ~ 39h)				03h
02h	R (52h)	F (46h)	L (4Ch)	E (45h)	N (4Eh)	xxx (30h ~ 39h)			03h
02h	R (52h)	F (46h)	L (4Ch)	E (45h)	xxxx (30h ~ 39h)				03h

13. 困ったときには

困ったときには、以下の症状の項目を一度確認してみてください。

症状	キーを押し接続動作を行うと、すぐにブザーが『ピーピーピー』と鳴り電源がオフする。
対策案	ペアリング情報がありません。接続機器とペアリングを行ってください。
症状	キーを押し接続動作を行うとLEDの青点滅になり、暫くするとブザーが『ピーピーピー』と鳴り電源が切れる。
対策案	<ul style="list-style-type: none"> ・接続相手のBluetoothがオンになっているか確認してください。 ・(SPP通信の場合)接続相手のアプリケーションのSPPのポートをオープン状態にしているか確認してください。 ・それでも繋がらない場合は、一度ペアリングをし直してから接続を試してください。
症状	キーを押し接続動作を行うと、LEDの青点滅が始まらず、赤点滅になっている。
対策案	電池残量がありません。 キーをブザーが『ピーピーピー』と鳴るまで押し続けて下さい。 この操作により電源オフできますので、電池を取り外して交換して下さい。
症状	通信中のLEDがいつもは青色が点滅しているのに赤色になった。
対策案	電池残量が少なくなってきました。 まだ使用はできますが、電池を交換することをおすすめします。
症状	通信中に急にLEDが速い赤点滅になった。
対策案	電池残量がありません。 キーをブザーが『ピーピーピー』と鳴るまで押し続けて下さい。 この操作により電源オフできますので、電池を取り外して交換して下さい。
症状	接続時に、接続相手にPINコードを入力する画面が表示される。
対策案	"3939"を入力して下さい。
症状	ペアリングモードにならない。
対策案	以下のどちらかの操作を行ってください。 ・【キー操作】 - 【起動時】 - 【Bluetooth接続】に設定しているキー（工場出荷状態の場合は、左キー）を長押しし、LEDが青点灯したらキーを離します。 ・【キー操作】 - 【起動時】 - 【バーコード読み取り】に設定しているキー（工場出荷状態の場合は、右キー）を短く押し、ペアリングバーコードを読ませます。 青点滅(ON:長)になるとペアリング待ち動作ですので接続相手より検索を行ってください。
症状	ペアリングモードで何とペアリングすればよいかわからない。
対策案	デバイス検索を行ったときに見つかった名称『DHS-100A xxxxxx』とペアリングして下さい。 xxxxxxは機器IDです。

-  **Bluetooth**®はBluetooth SIG inc.の登録商標です。
- Fel iCa は、ソニー株式会社の登録商標です。
- Fel iCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。
- iPhone、iPad は Apple Inc.の商標です。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- iOS 商標は、米国 Cisco のライセンスに基づき使用されています。
- **Sparklet**®は株ディジ・テックの登録商標です。
- 本資料は製品の改良や資料の内容の改善のため予告なく変更することがあります。
- この資料は2014年11月27日現在のものです。

株式会社 ディジ・テック

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 13-48

ベルパーク大津ビル3F

Phone 077-510-1212

FAX 077-510-1211

<http://www.digi-tek.com/>